

小學卒業獨學者立身案内

二〇

巢鴨中等夜學校(市外西巢鴨町宮仲)

大日本國民中學會豫備學校受験科(麴町區飯田町)

國民英學會(午前部、午後部、夜間部)(神田區錦町三丁目一九)

日進英語學校(午前部、午後部、夜間部)(第一校舎—神田區仲猿樂町五、第二

校舎—神田區三崎町三丁目一)

普及英語學校(午前部、夜間部)(神田區今川小路二ノ一五)

正則英語學校(午前部、午後部、夜間部)(神田區錦町三ノ二)

三田英語學校(午前部、午後部)(芝區三田四國町二)

東京基督青年會英語學校(神田美土代町三丁目)

研修英語學校(神田區仲猿樂町一六)

築地英語學校(京橋區入船町四丁目)

福音教會英語學校(京橋區西紺屋町二〇)

三崎英語學校(神田區三崎町一ノ四)

神田英學校(神田區美土代町二ノ一)

夜學で卒業できる工業方面の學校

電氣とか土木とか建築とかいふ方面はかなり人員の需要があるので小學卒業生でこれに向ふ者も少くない。その爲に便利な學校が出来てゐる。工手學校とか電機學校とかいふ種類の學校で、入學資格は大抵、尋常小學卒業で豫科一期に無試験で入れる。豫科一年、本科一年で、つまり小學卒業後二ケ年で、電氣なり土木なりの専門知識を授かつて社會に出るのである。この種の學校は、何れも晝間と夜間に分れてゐて、夜間は午後六時から九時までであるから、銀行とか會社に勤めてゐながら通學することが出来る。

科目は學校に依つて多少相違はあるが、機械科、電氣科、土木科、採鑛冶金科などに分れてゐて、月謝は豫科が三圓五十錢、本科が四圓位である。卒業して就職口があれば、初給四十圓か四十五圓位貰へる。修業の科目に依つて就職先も異なるが、電氣と

か土木の會社、鐵道方面、工務所などに雇はれるのが普通である。次に學校名を記して置かう。詳しいこととは志望の學校に二錢切手封入の上照會して見ればよい。

- 攻玉社工學校 東京府大崎町桐ヶ谷
- 工手學校 同 淀橋町日本中學校内(假校舍)
- 中央工學校 東京市神田區仲猿樂町五
- 東京工學校 同 本郷區眞砂町一八
- 東京工科學校 同 神田區錦町三丁目十
- 東京商工學校 同 神田區淡路町一丁目一
- 電機學校 同 神田區錦町三丁目一七
- 法政大學工學校 同 麴町區富士見町四一二
- 日本大學商工學校 同 本所區橫網町一丁目二〇
- 目白工學校 東京府落合町下落合四三七
- 早稻田工手學校 同 戸塚町

東京建築學校

東京市神田區三崎町一丁目三

夜學で卒業できる商業方面の學校

商業方面の學校で夜學のあるものは尠くない。授業時間は午後六時から九時迄であるから苦學で十分に勉強することが出来る。月謝は三圓から五圓位まで、年限は、乙種程度なら二年半位、甲種程度なら四年、更に實業學校令によつて甲種商業學校と同一の資格を與へられてみるものなら五年である。この五年の商業學校は夜間でも晝間の學校と同じく資格がつくので、東京には専修商業學校、高輪商業學校、郁文館商業學校の三校しかない。商業學校の卒業生は勿論實業方面に就職するので、銀行、會社、商店など就職先が廣い。月給は色々であつて會社に依つて一定してゐないが、先づ三四十圓の所であらう。次に東京の夜間商業學校を記して置かう。

郁文館商業學校

東京市本郷區駒込蓬萊町

大倉高等商業學校夜學部

同赤坂區葵町三

第二 小學卒業者の獨學苦學案内

高輪商業學校	同	芝區車町五八
中央商業夜學校	同	京橋區越前堀一ノ四
東京市立商業學校	同	麴町區麴町一ノ一九
早稻田實業學校	同	牛込區鶴卷町一〇
專修商科學校	同	神田區小川町一

國民教育の使命を負へる小學校教員

小學校教員とは言ふまでもなく全國の小學校の兒童を教育し指導する役目を持つ人であつて、純眞無垢な兒童をして、知識と品性とを高めしめ、やがては第二の國民として社會國家に有用な人物たらしめる素地をつくるものである。他の營利事業に従事する者に比較してこれほど高尚な天職が他にあらうか。更にこれを生活上から見ても好箇の職業である。小學校教員になれば、最低四十五圓位から最高百五十圓、二百圓

の俸給をとつてゐる人が少くない。そして眞面目に——所謂教員の體面を汚すやうなことをさへしなければ、老年までその職につくことが出來、老後は恩給によつて生活を保障されるのである。

もう一つの特權としては仕事に骨が折れなくて時間の餘裕があることである。毎日教へることは教案によつて定つてゐるので、その時間だけ教室に出て教へればよいので、肉體的の勞働といふやうなことはなく、放課後は教案の作成や採點其他の仕事があつたとしても、先づ自由に解放されると言つてよい。日曜祭日はキチンと休みになるし、夏季、冬季、春季の休暇がかなり長くある。凡そ教員ほど時間に餘裕のある職業は少いだらうといはれてゐる。それであるから教員をしながら勉強して成功した人が少くないのである。

一般に小學校教員といつてゐる中にも、これを細別すれば五つに分ることが出来る。即ち小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員、小學校准教員、尋常小學校准教員、小學校専科正教員などで、このうちどれでも一つ資格を持つてゐれば訓導といふ肩書

が得られて教員の職につくことが出来る。この外に代用教員があるが、これは臨時的に採用されるもので何等の資格もない。

教員の資格を得るにはどうしたらよいか。それは男女師範學校の本科又は第二部を卒業するのが順當であるが、さういふ正式の教育を受けないものは、檢定試験を受けて合格すればよい。檢定試験には學力に制限がない。制限がないところに檢定の有難味がある譯で小學校卒業でもよければ、卒業しないでもよい。要するに試験に合格しさえすれば凡ては解決されるのであるからそれでよい譯である。小學卒業で講義録とか參考書とかによつてコツコツ勉強して立派に合格の榮冠を得た者が少くない。

檢定試験は各府縣で毎年一回以上必ず施行してゐる。その場所とか期日とかは府縣報か地方の新聞に公告されるからそれを見ればよい。試験の科目と程度とは教員の種類によつて異つてゐるが要するに、小學校本科正教員は師範學校卒業程度、尋常小學校本科正教員はそれより少し低い程度、小學校准教員は中學三四年、尋常小學校准教員は高等小學卒業程度と思へばよい。故に小學卒業で受けるには、程度の低いところ

から順次に受けて行けばよいので、最初から高い程度のもを受けて骨を折る必要はない。試験に合格すれば教員免許狀が貰へる。この免許狀を貰つてはじめて資格がつくのであるが、それは試験科目の全科目に合格しなければ駄目である。ところが有難いことには「合格科目の免除」といふ特典があつて、受験した科目のうちで成績のよい科目だけは、成績佳良證明書といふものが貰へて、次の試験からはその科目は受けなくてもよい。この證明書は何年間も有効であつて、また各府縣を通じて有効であるから別な縣に行つて受ける時もそれだけは免除される。受験者はあせらずに毎回ある科目だけを熱心に勉強して、佳良證明書を貰ひ、次には別な科目といふ風に順次にとつて行けば、全部の佳良證明書を得た時に免許狀が下ることになるのである。勿論一回で全科目に合格すれば、それほど結構なことはないが、數回に亘つて受験しても立波に合格できるのである。以上で大體わかつた事と思ふが、なほ詳しいことは、府縣の學務部に照會すれば規則書を送つてくれるからそれに依つて見られたい。

官界飛躍の基礎たる普通文官

官吏は國家の行政機關を執り行ふ一員として、その生活は國家によつて保證され、その地位もまた安定なるは言ふ迄もない。小は雇員、屬より大は知事、大臣に至るまで行政機關の執行に携はつてゐるので愉快なことは勿論、その進路にも井然たる階梯があつて、實力と努力の如何に依つて秩序的に榮達することができる。その官吏となる第一階梯は、先づ普通文官——所謂判任官になることである。この普通文官は難有いことには、學歴もなく全くの獨學者でも試験に合格すれば直ちにその地位を得ることが出来る。中學を卒業したからといつて直ぐに此の資格は得られない。ところが小學卒業でも、試験に合格すれば判任官の資格が得られるのである。

この試験は普通試験といつて、官廳の必要に應じて行はれるので、その期日場所は施行日の一二ヶ月前に官報又はその地方の新聞紙に公告されるから官報や新聞を注意してゐればよい。この試験は毎年どの府縣も行ふとは限らない。然し全國を通じて一

年に四五ヶ所位あるから志望者はその府縣に行つて受ければよい譯で、合格者は全國統一的に資格を與へられる故に、香川縣で合格しても静岡縣へ行つて勤めることも出来る。山形縣にゐる者が、奈良縣に行つて受けることも自由である。試験場は募集公告の中に發表されるが、大抵はその府縣廳の所在地で學校又は議事堂のやうな所である。毎年一回の志願者はなか／＼多く、七八百人から千人位に達することは普通で、その中で合格する者は、七十人か百人位であるから、かなり競争がはげしいと言つてよからう。

試験科目は普通學と法律經濟とに分れてゐて、普通學の方は修身、國語、漢文、作文、數學、地理、歴史、筆蹟の八科目で、程度は中學四年程度と見れば差支へない。法律及經濟の方は、憲法行政法、刑法、民法、經濟學の五科目で、稀れには民事訴訟法、刑事訴訟法を加へることもあるが先づないと見て差支へない。前記の五科目が全部試験に出る譯ではなく、必須科目と選擇科目に分れてゐて、このうち半分は必須科目(即ち必ず受けねばならぬもの)半分は選擇科目(即ちそのうち一つを自分が選んで

受けるもの)に分れてゐる。然し、どの科目が必須であるか選擇であるかは府縣に依つて一定してゐない。かう見て行くと試験は小學だけの學力では六ヶ敷いやうに思はれるが、普通學はみな小學校でやったことであるから、これを基礎として中學程度のものを勉強して置けばよいので、數學は算術だけだから小學の算術教科書をしっかりとやればよい。たゞ面倒なのは法律と經濟である。これだけは講義録なり参考書なりに依つて勉強しなければならない。小學卒業でこの試験が通つた人は澤山あり、中には卒業後一年の勉強で合格した人もある。要するに成否は勉強の程度によるのである。

これに合格して任官すれば、中央官廳又は各府縣の判任官(即ち内務屬とか何縣屬とか)になるので、初給四五十圓から最高給百六十圓まで給せられる。そして一級俸(百六十圓)を受け五年を超え事務熟練なるものは特に二百圓まで給せられ、更に在職十五年に達すれば恩給を受けることが出来る。

かういふ待遇を受けて、過ちなしに進んで行けば、遂には高等官になることも出来るが、それには年數がかかる。若い元氣のある者はどうしても屬官では満足できない。

苟も官界に身を投じた以上は、課長となり局長となり、次官大臣の椅子までも窺ふやうな理想がなくてはならない。然らば高等官となるにはどうするか。それには高等試験を受ければよいのであるが、この試験は小學卒業では到底六ヶ敷しくて駄目であるから、先づ判任官となつてゐて夜間の専門學校なり大學なりへ通ふか、自宅で専門の學科をしつかり勉強するかして、根柢のある準備をした後でなければならぬ。

判任官の資格ある裁判所書記

裁判所書記は判任文官の待遇を受け、裁判所の事務を執るものであつて「裁判所書記登用試験」に合格すれば誰にでもなれるのである。この試験には別に資格といふものがないから全くの獨學で應ずることが出来る。施行期日は各地の裁判所で任意に施行するので期日は一定してゐない。また毎年行ふとも限らず、何處の裁判所でも施行するといふ譯ではない。たゞ施行する時は官報に公告されるからそれを見ればよい。

試験科目は普通學は作文、筆寫、書取、算術、簿記、外國語で、民法、商法、刑法、

民事訴訟法、刑事訴訟法が加はり口述及筆記の二つに分れてゐる。程度は普通學の方は大體中學三四年程度と思へばよい。法學の方は深いものではないが大意に通じてゐなければならぬ。この試験は小學卒業でも少し勉強すれば合格することが出来る。そして、合格すれば直ぐに採用されて、月俸四十圓から百六十圓位までに上ることができ、更に監督書記に昇進すれば、二百圓位までとれる。

大森林や原野を友とする森林主事

森林主事は營林局署官制に依る判任文官で國有の森林原野の管理保護の擔當に任ずるものである。常に營林署に勤務して官舎に駐在し、官規に依つて一定の制服を着用し、國有林野内又は其の境界區劃線附近を巡視して、森林の盜伐その他に關する犯罪を豫防すると共に、進んで造林事業の實行や植樹、伐木事業林産物處分の調査等の指揮に従ひ、専ら森林原野の利益増進に任ずる役目である。森林主事に成るには中學校卒業とか、檢定試験合格とかいふ資格は全然なく、たゞ森林主事特別任用試験に合格

さへすればよいのであるから、獨學を以て立志しやうとする青年に取つては極めて適當してゐる。

試験場は、東京營林局(東京市麴町區大手町二丁目一番地)青森營林局(青森縣東津輕郡瀧田村) 秋田營林局(秋田市東根小屋町) 大阪營林局(大阪市東區内久寶町寺町三丁目) 高知營林局(高知市西弘小路) 熊本營林局(熊本市原町本町) で、時々その必要に応じて行ふので、二十才以上三十五才以下の男子であれば受ける資格がある。試験科目は大體中等教育程度を標準とし、身體検査、法制大意、筆算(四則、分數、比例、求積)、珠算(加減、乗除)、作文(片假名交り文及往復文)、書取(但し筆蹟を考查す)、口述である。試験期日試験地及出願期限は試験執行の都度豫め官報及新聞紙に公告し、尙試験場は試験執行期日前に試験執行地所在の各營林署揭示場に揭示する。

高級で聘せられる電氣主任技術者

電氣事業はそれぞれ主任の技術者が無ければ事業は營まれない。其の電氣事業の主

任技術者の資格は、第一種、第二種、第三種の三種類に分れ、第一種の資格は、大學令に依る官立・公立・私立の大學（即ち學士になれる大學）の工學部などで電氣工學を専門に修めて卒業した者又は電氣工學を専門とする工學博士が無試験で貰へる資格。第二種は高等工業學校の電氣工學科を卒業した者が貰へる資格。第三種は甲種程度の工業學校（尋常小學を卒業して入れる五ヶ年の工業學校か、又は高等小學を卒業して入る三ヶ年の工業學校）を卒業した者が貰へる資格である。

右の三種は、電氣事業の電力の多い少いに依つて定められたもので、第一種の電氣事業の主任技術者は月収が二百圓以上で、第二種の電氣事業の主任の技術者は、月収八十圓乃至百二十圓、最も高いのは二百圓以上である。第三種は月収六十五圓乃至八十五圓最高は百二十圓である。

然らば電氣事業の技術者となるには、工業學校、高等工業學校、大學の電氣科や電氣工學科を卒業せねばならないかといふと、決してさうではない。小學を出ただけの學歷の者、又は中等學校を半途で退學した者でも、逓信省が行ふ「電氣事業主任技術

者資格檢定試験」といふのを受ければよいのである。この試験は第一種、第二種、第三種に分れ、第一種の試験に合格した者は、工學士や工學博士と同じ資格が貰へて、第一種の電氣事業の主任技術者になることが出来る。又第二種の試験に合格した者は高等工業學校卒業生と同じ資格となり、第三種の試験に合格した者は、甲種程度の工業學校の卒業生と同じ資格が貰へて、それぞれ第二種或は第三種の電氣事業の主任技術者となることが出来る。で此の資格檢定試験は、獨學者諸君が、てつとり早い試験で一人前の工業家の資格を得るものとして非常によろしい。そして、初は第三種の試験を受けて第三種の主任技術者となりそれで止つてもよいし、又其後の志次第、勉強次第で、第二種、第一種と順々に受けて行く事も出来る。獨學で第一種まで合格した人もある。此の試験は獨學者諸君の立身門のみではない。甲種程度の工業學校を卒業して、上の學校に進んで入學する事の出来ない諸君が、少し勉強して第二種又は第一種の試験を受けて、其の資格を取るにも都合がよい。

試験は毎年定期に行はれ第一次と第二次とに分れてゐて、第一次に合格したもので

なければ第二次は受けられない。その詳細は逓信省電氣局へ照會すればわかる。

右の試験を受けるには、電氣に關する基礎の知識と經驗とが要る事はいふまでもないが、それでは其の知識や經驗——即ち電氣技術を研究するには、何處でどうして學修すればよいかといふと、それには、東京では工科學校とか工手學校とかいふ私立の工業學校はそれぞれ電氣科又は電氣工學科といふ科があつて、それに入學するのであるが、いづれも大抵皆授業は晝間と夜間の二部に分れてゐる。だから晝間職業に従事しながら學資金を作つて、夜間に通學することが出来る。此等學校には、十四五歳の少年から二十歳前後、中には三十歳前後の人も通學してゐる。

此等の學校は大抵皆、豫科は一年半又は二年、本科は一年、高等科は十箇月位で、そして豫科の一學期には、大抵尋常小學卒業程度で入學することが出来る。それ以上の學歴のある者は、それ以上の科や學期に入學する事が出来る。即ち高等小學卒業生、中學二年修了者、同三年修了者、同四年修了者、中學卒業生といふ風に、それぞれ相當に入學することの出来る學期や科がある。そして一年の中に、數度の入學期がある

から、どんな學歴の人でも、又何時でも入學する事が出来る、右の學校については前の「工業方面の學校」の章を見られたい

航海者の慈父といはれる燈臺官吏

燈臺の數は四五百現存するが、其中主要なるものに留まつて燈臺の事務を取扱ふのが即ち燈臺看守である。燈臺官吏は毎年六七月頃募集され、九月の初旬嚴密なる體格検査と學課試験の上、給費傳習生として採用され、十月より約六ヶ月間横濱の燈臺局で各種の學術技藝を授けられる。そして彼等の仲間では白鳥船と稱へられる燈臺視察船羅州丸で、北は樺太千島より南は琉球に至る全國に分布された燈臺へ赴任の旅に船出するのである。其の任地の多くは僻遠の地で、都會的歡樂はもとより望み得ないが、讀書に思索に恵まれた自然の中に生きることができ、二三年に一度の轉勤は平素稍もすれば無事になれ沈滞勝な生活に妙味を與へるものとなる。

卒業後は直ちに判任官に採用され、月俸四十圓以上を給せらる。漸次進んで一級俸

(一六〇圓)乃至特別俸(二〇〇圓)を受くるに至る。尙樺太廳關東州在勤者は加俸(月五〇圓以上)を受くるの特典がある。其の他官舎、官服の無料貸與、備藥無償給與、手當(月三圓乃至十圓)學齡兒童手當(三人を限度として一人當月額五圓宛)竝に飲水令品、運搬費等を官給補助せらる。この養成所の所地は横濱市北仲通六丁目八二燈臺局内である。

志願者資格は年齢滿二十歳以上三十歳未滿の者にして高等小學卒業以上の學力を有する者であればよいので募集は六月頃に官報に出て、試験は九月上旬、科目は讀書(假名交り文)、作文(記事文、普通往復文)、算術(加減乗除、分數比例)、筆書(楷書、行書)、英語(羅馬字、單語及單文の英語和譯及和語英譯)である。

昇進の道が開けてゐる警察官吏

警察官の階梯は巡査から始まつて順次に昇進して行くのが普通である。尤も文官高等試験に合格した者は、巡査から振出さないでよいが、一般には巡査が最初の振出しであつてその階級を示せば次のやうになる。



右のうち、試験があるのは巡査、巡査部長、警部補の三種であるが、巡査部長、警部補の試験は、巡査になつてゐる者が受けるので一般からは受けられない。一般から採用されるのは巡査である。

巡査は各道府縣によつて募集するので、試験の上採用されると、その府縣警察部所屬の巡査教習所(警視廳では警察官練習所と言つてゐる)に入る。在所期間は三ヶ月乃至六ヶ月、寄宿舎に入つて、制服、制帽、帶劍を貸與されて普通の巡査と一見しては變らない服装になる。教習所にある間は平均月額三十圓乃至三十五圓を支給され、教習所を出て一人前の巡査になると、すぐ各警察署に配置され任務につく。初給は四十

圓以上、其他手當などを加へれば五六十圓になる。學力は小學校卒業程度であればよいので、試験科目は作文(讀方を含む)、算術、地理、歴史の四科目である。(外務省及び各府縣、植民各地にては一科目乃至二、三科目を加へるのが例である)警視廳に於いては毎週、日曜、火曜、木曜の三日、午前八時から(十一月一日より三月三十一日迄は午前九時より)芝區愛宕下町、警察官練習所に於いて施行し、其の他各地の警察官練習所に於いては、年二、三回募集試験をするのである。

巡查が警察署に配置されて一年乃至五六年の巡查服務中、眞面目にして勤務に精勵なるものは、署長の推薦並に警察部長の詮衡に依つて再び講習生として前記の教習所に入所を命ぜられる。これは普通後期生と呼ばれて、三ヶ月間講習を受けるのである。教習所に入所中は、平均三十圓乃至三十五圓を俸給として支給され、その外に被服料として二三圓を支給される。かうして三ヶ月乃至六ヶ月の授業を終へて各警察署に配置されて實務につくのである。後期生は在所中にも拘らず俸給は規定通り支給される。その外に訓練手當として、月三圓乃至五圓を支給される。後期生は三、四ヶ月の講習

を終へて、元の所屬の警察署に歸り巡查勤務に服す。大阪兵庫あたりではこの講習を六ヶ月間行ふ様である。それだけに講習終了後巡查部長に昇進する率も多いわけである。後期生の講習を受けたる者は、早く二年半位から巡查部長に昇進する。縣によつては特別に巡查部長試験を行つてゐる所もある。

かうして、部長から警部補、警部、警視といふやうに昇進して行くので、警視になれば高等官である。

以上は内地に就いて言つたのであるが、更に植民地、海外の警察官吏になれば待遇が非常によくなくなる。海外に雄飛して自由の天地に活動したいと思ふ者は、最も簡單で生活の確實なこの方面の職に就くもよく、此の希望者は年々増加して來る傾きがある。朝鮮、臺灣、樺太、關東州の巡查は初給六十五圓以上、外に手當があり、また危険地に駐在することになると七十圓以上を給されるから、内地よりすつと優遇されてゐる譯である。

この植民地警察官吏を志望する者は、その募集公告が毎年一回又は二回、内地の

新聞に出るから、それに依つて試験期日や試験科目などを知るがよい。試験は、各植民地當局の教官が各府縣の二三警察署又は教習所に出張し、その場で及落を決して、合格者は旅費を支給されて、その植民地に行き、講習所に入つて三ヶ月乃至六ヶ月の講習を受けて後任官することになるのである。試験は内地と似た程度で、大して六ヶ敷いものではないから、此の方面に志望を向けるのもよいことであらう。

入學の日から手當を支給される鐵道員

交通機關の發達に伴うて、年々鐵道は増設され、この方面に必要な人員は少くないので、鐵道省では鐵道局教習所を設けて、従業員となる者を養成してゐる。この方面の希望者が近年は馬鹿に多くなつた。どういふ譯かといふと、小學卒業程度で入學が出来る上に、入つたその日から日給を支給され寄宿舎に入るのであるから學費は殆どいらぬ。そして三年経てば鐵道従事員として就職させてくれて何處へ勤めようかといふ心配は全然ないからである。少年諸君の中で官費で勉強して職に就かうとするに

は適當な所である。

さて、鐵道局教習所といふは、東京(東京府下池袋)、名古屋(名古屋千種町)神戸(神戸市若松町)、門司(門司市大里町)、仙臺(仙臺市)、札幌(札幌市)にあつて、普通部專修部などに分れてゐるが專修部の方は驛員でないといふから、一般の人は普通部を選ぶがよい。普通部は、業務科、機械科、土木科、電氣科に分れてゐて何れも修業年限は三ヶ年、試験にさへ合格すれば學歷のない者でも入學できる。但し年齢に制限がある。即ち十四歳以上十七歳までといふことになつてゐる。

試験科目は國語と算術だけで、程度は高等小學卒業程度といふことになつてゐるか尋常小學の卒業者は、少し勉強すればよい。問題はさう六ヶ敷くはないが年々受験者が増えて來てゐるから振り落されないやうに、シツカリ勉強して置くことである。卒業後は六ヶ年間鐵道に勤める義務があるが、その間に、專修部なりその上の専門部なりへ入學すれば義務年限などは終らなくてもよいので、うまく専門部でも出来ることになれば一躍判任官となり、あとは腕次第で課長にも局長にも昇進することが出来る

のである。

なほ専修部は驛員からとるといつたが、そのうちで電信科だけは一般から募集するからこれも有望である。資格は十四歳以上二十歳以下(女子でもよい)で試験は前の普通部と同じ程度だが、時に英語があることがある。尤も英語といつても極く初歩で、綴字や單語單句が出る位のものである。電信科は學術試験に合格すると假に入學をさせて、簡易な電氣通信技術を教へ、三週間ほど經つてから將來電信技術者として見込あるかどうかを見て、見込のないものは不合格にするといふことになつてゐる。毎年各教習所を通じて數千人の應募者があり、その受験準備の教育を施す豫備校まで出來てゐるといふ有様である。受験者は小學卒業だけならば、國語と算術を十分勉強しなければならぬ。

生徒募集は毎年一回で十二月又は一月頃に各鐵道局報、新聞紙、停車場揭示などに依つて公告されるから志望者は注意してゐればよい。合格して入學を許可されると、その日から雇員としての待遇を受け、在學中は俸給として必要な費用を支給され、學

習用として必要な用具を貸與または給與される。そして學生は全部寄宿舎に收容されることになつてゐるが、病氣又は已むを得ない事情のある者は通學することを許される。舍費は一ヶ月十二圓乃至十五圓で、在學中に兵役に服するやうなことがあれば、その服役が四ヶ月以内のときは在學のまゝとし、この期間を超えたと一旦退學されるが、除隊前に豫め復學を願ひ出て置けば、教習上差支へない限り相當の學年に編入されることになつてゐるから、この點は安心であるといつてよい。

さて三年後に卒業すれば初任給は大體、業務科の卒業生が日給一圓三十錢、其他の科の卒業生は日給一圓四十錢であり、この正規の給與の外に、出張旅費、宿泊費其他の手當もあり、また汽車の無賃乗車、鐵道官舎の給與などの優遇法も設けられてゐる。勤務はどんなことをするかといふと、業務科の卒業生は、停車場の改札係、出札係、貨物係、車掌などで、機械科は機關車の乗務員や工場の技術員、土木科は鐵道の改良及び保存の土木の建築技術員などで、電信科は通信區、電力區、發電所、電車々庫の技術員などである。

とにかく卒業して雇員となつてしまへば、それから後は自分の腕次第で、成績さへ上げれば順次に昇進することも出来るし、また二年以上鐵道部内に就職して成績が良好であれば、教習所専門部に入學することを許される。専門部は専門學校程度で、高等な學術を授けられ、卒業後は直ちに判任官に採用されて、ずつと高い地位にまで昇進することができる。

割合に優遇される朝鮮の鐵道員

前に述べたのは内地に就いてであるが、朝鮮にも「朝鮮鐵道従事員養成所」(京城府)といふのがある。こゝも比較的待遇がよいので入所の希望者が少くない。同所は本科、工作科、電信科及講習科に分れてゐて、本科を分ちて業務科、運轉科及土木科とし業務科は主として鐵道の運輸業務に關する事項、運轉科は主として機關車の運轉に關する事項、土木科は主として鐵道線路の建設及保存の技術に關する事項、工作科は鐵道工場の技術に關する事項、通信科は鐵道の電氣通信技術に關する事項、講習科は鐵道

業務上必要な事項を講習するのである。修業期間は本科三年、工作科四年、電信科三十週で講習科の修業期間一定してゐない。

本科に入學を許可される者は年齢十四年以上十八年未滿の男子で、身體の發達順當にして本所所定の身體検査に合格したる者、心性の發達順正にして本所所定の試験に合格したる者、尋常小學校若は普通學校第六年二の課程を修了したる者又は所長に於て之と同等以上の學力を有すと認めたる者といふことになつて居り、工作科の入學に付ては鐵道局長の定むる所に依り鐵道工場の従事員たる者の子弟は他の入學者に對し優先權をもつてゐる。義務年限は本科五年、工作科四年、電信科三年で、其他に就いては鐵道局教習所と大體同じであると思へばよい。

小學卒業で遞信官吏となる近道

小學校を卒業しただけで郵便局員になるにはどうしたらよいか、それは遞信局に附屬してゐる遞信講習所に入所して、そこを卒業するが一番近道であり安全である。遞

信局は東京、名古屋、大阪、廣島、熊本、仙臺、札幌の七ヶ所に置かれてゐるが講習所はこれに附屬した職員養成機關で、管下の郵便局、電信局等の、通信事務に従事する吏員に必要な學術技藝の講習を爲すを以て目的とし、本所の他に尙重要都市には支所を置いてある。本所は普通科と高等科とに分れてゐるが、普通科入學資格は(一)男子は滿十四歳以上滿二十歳(三等局に採用すべき者は滿二十五歳)以下にして在學中徵兵現役に關係のないもの。女子は滿十四歳以上にして家事に繫累ない者。(二)品行方正、身元確實なる者。(三)入學試験に合格したる者といふので、募集期日や出願期及び試験期日等は各講習所で一定しないから照會してみればよい。

入學試験は體格検査と學科試験とに分れ、體格検査に合格した者でなければ學科試験を受ける事が出来ない。學科試験は高等小學卒業程度で左の科目に付き行はれる。

一 讀書(漢字交り文)

二 作文(往復文又は記事文)

三 算術(四則、分數、比例)

四 心理検査

試験場は遞信講習所及支所で勿論入學しても授業料は無く教科書を除く外授業に必

要なる物品を給與し、器具器械を貸與され、尙入學の日より卒業證書授與の日迄は缺席の日を除き、手當として日額七拾錢を支給される。但し之が手當の支給を望まない者は私費生として入學できる。

こゝでは修身、電氣通信術、通信業務大意、電信取扱心得、英語、數學、國語、地理、事業衛生、體操などの科目を修得した後に、それ〴〵各地の郵便局やそれに關係した官廳へ赴任させられるので初給二十五圓位になる。それから自分の腕次第で、進んで上の遞信官吏養成所へ入ることが出来れば三年後には判任官になり、漸次昇進の途が開けてゐるのである。

光輝ある陸軍士官となるには

武勳に輝く陸海軍の士官を見ると少年時代には誰でも胸を躍らすものであるが、それになるには、陸軍士官學校か海軍兵學校を出なければならぬ。この學校の試験には別に學力に制限がないから小學卒業でも受けられる譯であるが、試験の程度が何れ

も中學校四年第二學期修了程度であるから、小學卒業の學力では到底駄目である。獨學でウンと勉強して力をつけた上でなければならぬが、それよりも、もつと早道がある。それは陸軍幼年學校である。この學校は中學一年第二學期修了を試験程度としてゐるから、尋常小學を出て少し勉強するか、高等小學を卒業すれば受けても大丈夫である。

幼年學校はもと東京、廣島、熊本の三校であつたが、今は東京一校のみになつた。修業年限は三ケ年で卒業後は引續いて士官學校に入學することになつてゐる。こゝで教へる學科目は中學校と先づ何等異なる處はないが、體操、劔術、柔道、教練と云ふ様なものが皆正科となつて居り、生徒は悉く校内生活をなし、特に將校たるべき精神的素質の養成に力を込めて居る處が、少々異つて居る。學科は總て文官教官が之を教授し、術科は武官が之を授け、各學年に生徒監として大尉一名を配屬して、訓育の任に當つて居る。校長は大佐か中佐級の人を以て其の職に充てゝある。

幼年學校といへば、體操や劔術や教練、野外演習と云つた様なもの許りやつてでも居るかの様に感じて居る向きの人もある様であるけれども、夫れは大變な間違である勿論體操、劔術、柔道、教練といふ様な事は心身氣力の鍛鍊上必要であるから、實施はして居るけれども、心身の鍛鍊と云つても、決して是等の方法のみを以てしては、到底十分なる能はざるは明かである。文武の道は常に併進を要する。そこで中學校と同様に普通學は最も力を込めて授けるのである。又毎年修學旅行もやれば、春、夏、冬の休みもあるし、夏季には約二週間の遊泳演習も行はれる。

學費は幼年學校では、條令の定むる處により、特待生、半特待生、自費生の三つに分れてゐる。特待生と云ふのは、納金の全額を免せられるもの、半特待生とは納金の半額を免せられるもの、自費生とは、納金の全額を納入する者で、自費生の一ヶ月の納金は二十圓で、それ以外には唯一ヶ月に約三圓位の小遣錢が要る位のものである。入學資格は只年齢だけの制限で、學歷に就いては何も問はない。即ち滿十三歳以上十五歳未滿の男子であればそれでよい。募集廣告は陸軍士官學校豫科生徒と同時に官報を以て發表される。募集人員は毎年約五十名、出願期限は十月下旬試験期日は十一月

下句である。

海の勇者となれる海軍志願兵

日本は四面海に囲まれた國である。海に就いて吾々の知識はかなり詳しいが、國家としても軍事上海軍は忽がせにしない。海軍方面に自分の志望を向けるのもまた立身の一方法であらう。海軍に入るならば兵學校、機關學校、經理學校へ入學するのが正當な順路であつて、卒業後は直ちに海軍士官となつて活躍できるが、それにはどうしても中學卒業位の學力がなくては試験が受からない。して見れば小學卒業では此の方面に全然見込がないかといふとさうではない。大いにある。それは海軍志願兵になることである。

志願兵には、水兵、機關兵、船匠兵、看護兵、主計兵、掌電信兵、軍樂兵などの種類があるが、何れも海軍下士官になることが出来る。右のうち掌電信兵だけは高等小學卒業程度其他は尋常小學卒業程度で、試験は讀書と算術の外に適性検査と體格検査がある。年齢は掌電信兵は十五歳から二十一歳まで、軍樂兵は十六歳から二十一歳まで其他は十七歳から二十一歳までである。志願兵は毎年十一月以後検査時期までの間に市町村役場を経て地方長官宛に願ひ出ればよろしいので、試験は翌年一二月頃に各地の検査地で行はれ採用者はその年の六月一日に海兵團に入團する。そこへ入れば既に帝國軍人として海軍四等兵を命せられ、約五ヶ月の特別訓練を受けて、三等兵に昇進し、はじめて實務につくのである。

志願兵の服役期間は現役六年、豫備役六年であるが、再服役を希望する者は、現役満期の前に二年を一期として何回でも再服役を出願することができることになつてゐる。志願兵の優秀な者は順次選ばれて下士官となり、准士官となり、特務士官にまで進むのであるが、下士官となつて二十三歳未滿の者は、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍經理學校の生徒に志願する途も開かれてゐて、これに首尾よく合格すれば、少尉候補生を振り出しに海軍士官として前途實に有望なのである。

海上生活の愉快な船舶員

汽船に乗り込んで、毎日海を友として暮すのも愉快なものである。この職業に就かうとするには、普通海員——水夫、火夫——になるのが一番早道である。小學卒業の學力があれば十分であるし、勉強の如何に依つては試験の上高等海員となることも出来る。さて、その船舶員となるには、日本海員掖濟會に志願して、陸上養成員若しくは練習船養成員となつて豫備教育を受けてから乗船する方法と、直接に見習員として乗船する方法と二つある。

陸上養成員は日本海員掖濟會が、普通海員養成所を横濱と大阪とに置いて、是が養成に當つて居る。養成期間は約二ヶ月で、其の後は日本郵船、近海郵船、大阪商船、其の他の船舶に乗船せしむるのである。

練習船養成員は同會所屬の練習船、國後丸(四千六十二噸)に乗組ませ、約二ヶ月の豫備教育を施したる後、日本郵船、大阪商船、其の他の船舶に乗船せしむるのである。右の如くにして、陸上養成員及び練習船養成員には、服、靴、帽子、教科書、文具等を支給し、更に養成中は毎月若干の小遣錢を給與することに成つて居る。

直接乗船、見習員は日本郵船、近海郵船、大阪商船、其の他各會社の船舶に直接に見習員として乗船せしむるもので、四ヶ月乃至六ヶ月位で本員と成るのである。乗船の日から手當として、十五圓以上三十圓以下の月給を受け、以後昇進と共に給料も増加されるのである。

此の直接乗船見習員は乗船準備として、作業服一着(二圓内外)、板草履、靴の代用(一足三十錢位)、毛布一枚(二圓五十錢位)、其の他齒磨、手拭、石鹼等の日用品を要する。是等の代價は大抵五圓内外である。但し作業服、毛布(代用として薄布團でもよい)、靴等の持合せがあれば、此の費用は要しないのである。尙同會には寄宿所の設備があつて、乗船を待ち合はすもの、便利を計つて居る。宿泊料は三食付で一圓六十錢位である。乗船待合期間は、時に依つて異なるので此處に一樣には謂へないが、一週間乃至二週間と見て此の費用十圓内外もあればよいのである。

普通海員の給料は水夫の初給は三十圓以上で漸次昇給し、水夫長の最高月給は百二十圓に至るのである。又勤続者には勤続手当がある。

火夫の初給も三十圓以上で、是れ亦漸次昇給し、火夫長は最高月給百二、三十圓に至るのである。尙以上の外、食料は凡て汽船會社の負擔で、更に航路に依つては、航路手当又は割増がある。

普通海員の職務としては水夫は船の入港に際しては投錨、繫留、出港に際しては拔錨、解纜等を初めとして、海底の深淺、又は速力の測量、舵取、見張等の運航上の作業、船體の保存、手入、荷物の積卸し、準備作業、端艇の操縦等、甲板部に屬する諸作業に従事するのである。

火夫は石炭の取扱、焚火、汽機、汽罐及び器具の修理、手入、其他諸機關を運轉する等、機關部に屬する一切の作業に従事するのである。

普通海員志望者の資格は水火夫養成員志望者は滿十六歳以上滿二十五歳以下のもので身體強健、視力、聽力完全なるものを、體格検査の上で採用する。體格検査は身長五尺以上、體重十二貫以上のもの、但し尺量に少しの不足があつても將來發育の見込ある者は採用する。學力は尋常小學卒業以上で徴兵に召集されない者に限る。直接乗船見習員の方は、滿十六歳以上二十五歳まで。體格の強健なものといふことになつてゐる。

更に普通海員で満足しないものは、日本海員掖濟會の高等海員養成所(神戸、吳、佐世保の三ヶ所にある)に入つて、高等の學術を習得し、遞信省の施行する檢定試験に合格して海員免狀をとればよい。高等海員とは、船長、機關長、運轉士、機關士をいふのであるが、この海員になれば、普通海員と異つて筋肉労働をやることもなく高給を受けて富かな生活が出来るのである。(高等海員となる方法として、高等商船學校へ入學するのが正しい順序であるが、これは中學卒業の學力がなければならぬから、本章は獨學者諸君の爲に、容易な方法を説いたのである。)

月收百圓以上ある自動車運轉手

自動車は都會は勿論地方にまで普及し、今では交通機關の一としてなくてはならぬものゝ一つとなつた。毎年自動車の増加は非常なもので、これに伴つてこれが運轉の任に當る運轉手も各方面から需要がある有様である。そ、就職先は自家用の自動車を持つてゐる個人、タクシーを經營してゐる個人又は會社、貨物自動車、都會地方を通じて年々激増しつつある乗合自動車などかなり多方面であつて、車臺が増えれば増えるほど運轉手もいる譯である。

収入も決して悪くない。個人に雇はれば先づ七八十圓位から百圓の月給は貰へる乗合自動車でも六七十圓は足りない所で、更に近頃流行して來た圓タク（市内を一圓均一で走るタクシー）の運轉手は經營者から自動車を月賦で買つて、乗客から取る賃金は自分のものになる組織になつてゐるから働き次第で儲かることにもなる。

さて、自動車運轉手になるはどうすればよいか。各府縣に於て施行する試験に合格して免許狀を貰はなければならぬ。免許狀には甲種と乙種とあつて、乗合自動車などを運轉するならば乙種でもよいが、普通の乗客をのせる自動車を運轉するには甲種でなけ

ればならない。試験には學術と實地と二つあつて、學術の方では自動車法規や構造學修理法などが問題として出る。實地は、實際に運轉してその技術を見るので、此の二つが通ればそこで免許狀が下附され、自由に運轉することができることになるのである。此の試験は、全國の各府縣で行はれるので、東京では警視廳で毎月何回となく施行してゐる。勿論、免許狀は全國共通のものであるから何處で受けても差支へなく、また受験資格にも何等制限が加へてない。もともと此の試験は運轉手を養成する意味の試験ではなく、何等實際知識のない者が自動車を操縦しては交通上害を及ぼすことが多いので、この危険を少くする爲に、試験合格者でなければ運轉出來ない規則になつてゐるのである。

此の試験は別に六ヶ敷いものでないから、講義録や參考書によつて學術の方を習得し、實地は實際の自動車に就いて練習すればよい譯であるが、それよりも早道は、自動車の學校なり講習所なりに入學するか、又は運轉手の助手になつて見習ふか此の二つの方法によつて試験を受けるのがよいと思ふ。

自動車學校は東京だけでも數校あり、地方にも大都會には設置されてゐるが、大抵年齢十四才以上にして尋常小學卒業生を入學資格とし、二ヶ月乃至四ヶ月を修業期間としてゐる。授業料は一ヶ月十圓乃至十五圓、其他に實習費として卒業までに七八十圓を要すると思へばよい。ここは所謂受験準備の豫備校であるから、卒業したらすぐ免狀が下る譯ではなく、更に運轉手試験を受けて合格しなければならぬが、よほど頭の悪い者でない限りは、一二回で合格するのが普通である。左に東京の自動車學校を記して置かう。

日本自動車學校(本科四月、速成科二月) 東京府蒲田驛前

帝國自動車學校(本科六月、速成科三月) 東京府駒澤町下馬引澤

東京自動車學校(本科二年、專攻科六月) 東京府下田無驛前

(この學校は職業學校として文部大臣の認可を受けてゐるので修業年限が長い。)

學校を経ずして運轉手の助手を勤めてゐながら試験を受けようとするには、自動車會社に住込んで助手になればよいので、月二十圓位の給料は貰へる。そして實地の方

は毎日運轉臺に乗つてゐるのであるから自然に修得出来るし、閑暇を見て學術の方を勉強して受けるといふ風にすればよい。更に前記の二つの方法に依らないで運轉手になるには、乗合自動車會社の運轉手養成所へ入ることである。例へば東京市電氣局自動車教習所とか東京乗合自動車會社の養成所といふやうな所へ入つて、三月位で卒業して試験に合格すれば、すぐに市營自動車なり、乗合自動車なりの運轉手に採用されて月收六十圓位になる。但しこの時の免狀は乙種であるから、若しその會社をやめて他に移るとしても乗合自動車のやうなものでなければならぬ。それが厭であつたら更に甲種の試験を受ければ今度はどんな自動車でも運轉することができるのである。左に東京に於ける養成所を記さう。

東京市電氣局自動車運轉手教習所 東京市麴町區櫻田門外

東京乗合自動車會社運轉手養成所 東京市下谷區稻荷町

空の勇者たる飛行家になるには

飛行機は歐米では既に實用化され、日本でも旅客輸送こそしないが實用化されようとしてゐる。かくまで航空學は發達し飛行機の技術は進歩して來たのである。地上を疾驅する自動車のやうに、飛行機が空中をトンボのやうに飛び交ふ時代は決して夢想ではなく、近き將來に實現するであらう。うるさい地上をはなれて、自由な大空を飛鳥のやうにかけまはる飛行家の愉快さは、また特別な心持であらう。

わが遞信省航空局では毎年航空操縦士を募集し、官費で養成してゐるが、この受験資格は中等學校卒業以上の學力がなければならぬから、小學卒業では困難であるが他の方法として、飛行學校に入つて學術實地を習得し、航空局の試験に合格すれば、それで飛行家になれるのである。飛行學校の主なるものは、

日本飛行學校(東京府蒲田) 東亞飛行專門學校(千葉縣津田沼海岸) 第一航空學校(千葉縣津田沼海岸) 名古屋飛行學校(名古屋市) 大阪西田飛行學校(大阪市) などがあつて、その内容は多少相違してゐるが、大抵尋常小學卒業を入學資格とし、修業期間は二ヶ月乃至六ヶ月で、別に募集期日といふやうなものはなく、隨時に入學

を許してゐる。授業料は飛行機を取扱ふのであるから普通の學校より高く實習費と共に卒業まで五六百圓を要すると思はなくてはならない。學校に入學して、機械學、電氣學、發動機學、空中氣象學といふやうな、凡て飛行機操縦に必要な學科を修得し、そして航空局の技術試験を受けて三等飛行士の免狀をとる。三等飛行士の免狀は大抵得られるが此の資格では何處へ行つても重用されないから、更に高等學術を研究して二等飛行士、一等飛行士といふ風に免狀をとつて行くのである。然し二等飛行士になるには飛行延時間五十時間を飛行した者、一等飛行士は二等飛行士となつて更に百時間を飛行した者でなければ受験資格がない。

ところで飛行家として立派に立つて行かうとするには、二等飛行士以上でなければならぬので、二等飛行士になれば新聞社に雇はれても一ヶ月二百圓以上の俸給を受け、その人の技術如何によつては長距離飛行などに依つて一時に數千圓の收入を得ることもあり、又太平洋横斷といふやうな壯舉に成功して莫大な懸賞金を得るやうな場合もある。飛行機の増加と共に、將來航空運輸といふやうなことが企圖されて來るに

相違ないから、飛行家の前途もまた有望といふべきであらう。

獨學苦學で美術家になる道

天才といはれる者は學問に依つて養成される者ではなく、全くその人の生れつきである。美術家や文學者などには由來天才と謳はれる者が多く、學問はなくても立派に天才を發揮してその作品が後世にまで遺るものが少くないのである。故に美術家にならうと志す者は、自分にその天分があることを自覺すれば學費のないのを歎くに至らない。小學卒業程度の學力しかなくても、常に繪畫に親しんで、繪ばかり書いてゐた爲に、後には世に認められるやうな作家になつた例も少くない。然しこれは幾百幾千のうちの一人二人であつて、萬人が萬人みなかう行くものとは限らない。それで先づ美術家たらんと志すものは、現今では東京美術學校に入學するのが順序であるが、この學校は中學校卒業生でなければ入學する資格がない。それでは本篇の目的に副はないから小學卒業で美術家になり得る方法を研究して見よう。

現今小學卒業で入れる學校は、東京に次の二つがある。

川端畫學校(日本畫科) 小石川區下富坂町十九

日本美術學校 東京府戸塚町下戸塚荒井山

川端畫學校の方は日本畫科は高等小學卒業、西洋畫科は中學三年修了程度としてあるが、日本美術學校の方は繪畫科、彫塑家、圖案科など何れも尋常小學卒業程度であつて、年限は二年乃至三年、月謝は三圓乃至四圓である。また學校に入ることの出来ない人は他の方法として畫家の門下生になつて學ぶことである。世間に少し名の知られてゐる畫家のところには此の門人が必ず二人や三人はある。自宅から通つて來る者もあれば、その家の書生となつて傍ら勉強する者もある。何れにしても、これは知合を辿るか他の紹介を求めかして、その畫家の門を叩かなければならないから、門下生を希望する者は兩親に相談して此の方法をとるのが得策である。そして幾年か苦心して悪い所は師に直して貰ひ、だん／＼世に出るやうになるので、それには相等の苦しみと年月を経ることを覺悟しなければならぬ。

美術家の収入は、日本畫にしても西洋畫にしても全く不同である。學校の圖畫の先生でもすれば月々定つた収入があるけれども、それで單に繪畫を賣つて生活する人は、世人から受ける受けないで非常な差があつて、全く賣れない畫家もあれば、一流の大家で月に數百圓、數千圓の収入ある人もある。これはその人の技量に依ると言はねばならない。

小學卒業で音樂家となる法

音樂家も前の美術家と同じやうに天才的の職業であつて、たとへ學力がなくても「好きこそ物の上手なれ」で立派な音樂家になつた人も少くない。さういふ天才的人々の話は別として、一般に音樂家となるには、東京音樂學校(東京市上野公園)に入學すればよいのであるが、これは中學四年修了の資格でなければ本科に入學することが出来ないから、選科の方に入學すればよい。選科の入學資格は男女とも尋常小學卒業程度で、毎年四月に試験を行つた上で入學を許可する。修業年限は三年乃至五年で、授

業料は年額三十圓といふことになつてゐる。この選科を卒業すれば先づ一人前の音樂家になるので、その後は腕次第である。

此の學校の外は音樂に關する適當な學校が少いから、個人の經營してゐる音樂教授の塾のやうな所に通ふ外はない。苦學する者などにとつては、時間が自由であるから却つて此の塾のやうな所の方が適當かも知れない。そして相等に出来るやうになつたら、音樂家(活動寫眞館などの)に紹介を求めて入るのである。音樂家の収入も色々あつて樂壇の花と謳はれるやうな人は一曲奏して五十圓にも百圓にもなるが、かゝる人は別として、音樂隊に入つた位では月收四五十圓が最初であらう。なほ個人教授でもすれば七八十圓から百圓位の収入はある。

序であるから記しておくが、音樂家といふ譯ではないが、音樂に關係した方面で陸軍の軍樂隊がある。海軍の方は、前に述べた海軍志願兵の中の軍樂兵であるから略するが、陸軍の方は、陸軍戸山學校である。これは軍樂隊員を養成するところで、學生と生徒の二つに分れ、學生の方は將校や下士であるが、生徒の方は年齢十七才以上

二十才までの者を一般から採用する。これは別に學歷に制限はなく、入校すれば軍樂生徒となつて教育を受けることになるのである。

さて、前章の美術家にしても、本章の音楽家にしても、志望する者はよく自己の天分を考へて決定しなければならない。天分のない者は努力だけでは成功することは困難であるから、單なる名聲にのみ憧憬れて自己を測らないやうなことの無いやうに注意しておく。

文筆で立つ新聞記者雜誌記者

一管の筆を以て天下に呼號するのは新聞記者である。新聞記者は無冠の帝王といはれ、文筆の力は社會を動かし人を動かすのだから愉快である。最近新聞記者の地位は殊に一般から認められるやうになつて來たから、この方面を志望する人が多くなつたやうである。東京の大新聞では時々記者を募集するが、應募者は殆ど専門學校又は大學卒業程度であつて、新聞社の方でもこれ位の學歷がなければ採用しない方針になつ

てゐるといふことである。事實記者といふものは、文章が書けるだけでは役に立たないので、鋭い觀察と、敏捷な活動力を持つてゐなければ、社會百般の事相を報道し、批判することは出来ない。それには經濟なり政治なりの専門の學問が必要である。故にこれから新聞記者で立たうとするには、どうしても専門學校以上を卒業しなければ立派な記者になる譯には行かないのであるが、さういふ教育を受けない者は全然望みがないと言ふ譯でもない。文筆に關する仕事は多くその人の天分に依るので、學歷としては全くない者でも修業の結果天晴れ名記者になつた者も少くない。小學卒業の學力だけでも、其後獨學で勉強して、地方の小新聞を振り出しに東都の大新聞に入ることも出来る。それは、その人の腕次第であり、また一つには先輩の引立にもよる。

要するに獨學で記者にならうとする者は、第一に自分で勉強することが大切であつて、法律、經濟、社會學の一般常識は心得てゐなければならぬから此の方面の修業をなし、常に文章を書いて文を練り、先輩を訪ねて見習記者として新聞社に使つて貰ふやうにする。これを第一階段として、それから順次自己の才能を發揮すべきであ

る。

雜誌記者も新聞記者と同じやうに相等の學才がなければならぬが、獨學者は、その雜誌に向くやうな原稿を書いて投書してゐるがよい。そのうち編輯者に認められて來れば、社に缺員があつた時に入れて貰へる便宜もあるといふものである。

就職の道の廣い銀行員、會社員

一般に銀行員とか會社員とかいつても、その種類は色々あるから一概にいふことは出來ないが、要するに商業方面の知識がなければ就職できない。高等の學校を出た者でも大會社になると最初のうちは見習である。尤も小學校を卒業しただけでも最初給仕に入つてそれから自分の技量如何でだん／＼上に引上げられ、遂には課長、重役になるやうな成功者もあるが、それはごく稀れと言はなければならぬ。それで、ここには比較的就職の途が開けて居り、銀行や會社から歓迎せられる方法をのべて見よう。それは前にも述べた商業學校を出ればよいのであるが、さういふ正式の教育を受ける

ことの出來ない者は、簿記計算に關する知識を習得して就職するのが一番早道である。簿記は六ヶ月乃至一年も習へばよく、計算に關することは主として珠算であるから、これは三ヶ月乃至六ヶ月も習へば十分である。それに都合のよいことには簿記を教へる學校の殆ど全部が夜學で通へる所であることである。入學の資格も尋常小學又は高等小學卒業程度であつて、月謝は大抵一圓から三圓位まで。次に東京の主なる學校を記さう。

牛込商業實務學校(銀行業務部、販賣術部一年) 東京市牛込區築土町

第三實業學校(簿記計算部) 東京市本郷區東片町

四谷商業實務學校(簿記、會計部) 東京市四谷區愛住町

大原簿記學校(簿記科、珠算科) 東京市神田區美土代町二丁目

明治簿記學校 東京市神田區錦町一丁目

村田簿記學校 東京市神田區仲猿樂町

さて、會社の簿記や計算係に就職すれば、月給は會社によつて異つてゐるから一概

にいふことは出来ないが、先づ三十圓から四十圓位は貰へる。そして昇進はその人の腕次第である。

小學卒業で入れる陸軍工科學校

陸軍工科學校といふのは、陸軍省に屬してゐる學校で、砲工兵工長を養成する生徒と、兵器技術を掌るところの砲工兵科の士官とする學生とを教育するところである。これには、現役兵から募集するものと、一般から募集するものと二つに分れてゐるが現役兵の方は諸君に必要なから省いておくとして、一般から入學できるものに就いて説明すれば、入學の資格は、年齢十七歳以上二十三歳までで、學力は高等小學卒業程度である。志願者は、毎年三月二十日迄にその地の聯隊區司令部に願書を出しておくと、徴兵検査のある時(六月頃)に徴兵署へ呼び出されて身體検査を行はれ、九月十日頃に學科試験がある。科目は國語、作文、算術、地理歴史、理科で何れも高等小學程度であるから六ヶ敷いものではない。

入學は十二月であつて、修業年限は二ケ年、その間は寄宿舎に入つて軍隊式の教育を受ける。在學中は服から食費まで凡て官費で、學科に要する本とか器具のやうなもののは貸してくれて、且つ毎月四圓五十錢の給料を支給されるから全然學費はいらないといつてよい。

ここを卒業すると、最初は三等工長(伍長相當官)に任官し、だん／＼昇進して上等工長(即ち持務曹長に相當するもの)まで昇進する。そしてその間に試験を受けて甲種學生(今まで説明したのは乙種學生である)となれば、一ケ年修業の後に少尉に任官する。また、この學校を卒業してから、改めて陸軍士官學校、陸軍經理學校の試験を受けることも出来るので、若し試験に合格すれば士官として昇進の途は開けてくる譯である。

毎年の生徒の募集の數は一定してゐないが百二三十人位である。陸軍方面に立身の途を求めものは、この學校に入つて官費で勉強し、前に記したやうに漸次上に向つて自己を開拓して行くのも面白いことであらう。

學歷に制限のない刑務所看守

刑務所の看守は、最初は大抵三十圓位で非番勤務は一日二圓以内、その他に宿舍料が二十圓以内支給される。そして最高七十圓で、在職二年以上で成績のよい者は、看守部長に昇進し、最高八十圓まで支給され、なほ精勤者には月額十圓以内の加俸を給されるから、待遇は悪くない。

この看守になるにはどうすればよいか、別に學歷に制限がないから小學卒業でも十分なわけであるが、試験には、簡単な算術と作文が出る外に、刑法、刑事訴訟法、監獄法及施行細則、裁判所構成法などの大意が出るから、専門までは行かなくても大體に通じてゐなければならぬ。これは、参考書によつて勉強する外はない。年齢は二十一歳以上四十五歳以下といふことになつてゐる。試験は一定の期日といふことはなく、各刑務所が必要に應じて募集するので、公告は新聞や官報に出るからそれを注意してゐればよい。

試験に合格すると、刑務所内で一二ヶ月教習を受ける。その間は二十圓乃至三十六圓の手當を支給されることになつてゐる。

日夜防火の任に當る消防手

消防のことはもとは一般の人が義勇的に出動して従事してゐたのであるが、大都會にあつては、さういふ舊式の方法では役に立たないので、要所々に消防署を設けてそこに消防士なるものを配置し、高い火見櫓の上から一分の隙もなく火事を監視してゐて、イザ火事となれば出動出来るやうに準備してゐるのである。この消防士を養成する爲に、東京、大阪、京都のやうところには消防練習所が設置されてゐる。(東京は麴町區半藏門外警視廳消防練習所)

消防練習所に入所する資格のある者は、年齢二十歳以上四十五歳以下で、學歷には別に制限ないが、たゞ徴兵検査のすまない者、現在他の官廳に勤めてゐる者、消防志願に對して父母とか妻子とかの同意なき者などは受ける資格はない。東京では毎月一

日と十六日の二回に消防練習所で試験を行つてゐる。試験の程度は高等小學卒業程度で、科目は作文、讀書、筆蹟、算術であるが、別にむつかしいものではない。そして合格して採用になつた者は二ヶ月又は三ヶ月教習を受けるので、その間毎月三十二圓づつ支給される。

卒業後は各消防署に配置されて實務に就くので、その任務は、消防曹長（巡查部長と同等）取締、機關勤務、放水勤務、傳令勤務などに分れてゐて、その人の才能に依つてそれ／＼専門的の勤務に従事せしめられる。一ヶ月の収入は初任が四十三圓で、其他宿料として七圓五十錢、賄料五圓五十錢、通勤手当三圓、被服料一圓七十五錢等を加へるからつまり六十圓以上になるわけである。そして昇進して消防曹長になれば月収百圓以上になり、また勤続手当や恩給などが支給されることは他の文官と同様である。

相等に収入ある電車の車掌と運轉手

地方の青年が東京に来て割合簡単に就職できるのは電車の車掌及び運轉手であらう。東京では電氣局教習所（東京青山南町七丁目）があつて随時に募集してゐる。資格は尋常小學卒業であつて國語、作文、算術、心理考査の簡単な試験をした上で入所せしめる。年齢は十八歳から三十五歳まで。（最近少年車掌を養成するやうになつたが、これには十六歳から採用される）

試験に合格した者は見習生として教習所へ入所するので、見習期間は、車掌四十五日以上、運轉手五十日以上、補助車掌三十五日以上、信號手二十五日以上といふことになつて居り、その間は日給七十錢から一圓の間に於て支給される。卒業後は、最初六十圓内外の収入であるが、その成績によつて漸次八九十圓になる。其他年二回の賞與、制服制帽の貸與などの特典があるから相等収入はあるといつてよい。

電車は早朝から深夜まで運轉してゐるのだから、その勤務も一般の會社のやうに朝九時から午後五時迄といふやうに毎日定まつてゐない。現在では日勤、二部日勤、隔日日勤の三つに分れてゐて、日勤乗務は一日平均八時間、非乗務（電車に乗らないで

内部にゐて仕事をしてゐる者)は十時間といふことになつてゐる。教習所では景氣の好い時代は、車掌や運轉手になる者が少く、またなつても直ぐに他の職に轉じる者が多かつたので毎日募集してゐたが、現在は不景氣の爲に退職者が少くないので缺員を生じない限り募集してゐないから、直ぐに入所することは出来ない。募集する時は電車内や新聞紙などで公告されるからそれを注意してゐればよい。

以上は東京市の教習所に就いて記したのであるが、其の他大阪、京都といふやうな大都會の電車には、相等多數の乗務員がいるので、これが養成機關たる教習所が設置されてゐるから、必ずしも東京でなければ就職出来ないといふことはない。

一時間十圓の収入ある速記者

速記者といふのは、講演會とか著述家の談話とかをそのまま速記者し、又は新聞社にあつて電話を速記する役目をする者であつて、談話や講演などを人の喋る通りに書くのは、普通の文字では遅くて書ききれないから、これを速記文字といふもので書

ておいて、後で普通文字に清書するのである。速記文字は一つの符號であつて、この符號を覚え、間違ひないやうに速記することを練習しなければならない。「速記術」といふのはこのことである。

東京で速記術を教へる所は一二ヶ所しかないが、有名なものは東京市麴町區富士見町佃速記事務所である。かういふ所で、半年なり一年なり練習して十分に速記が出来やうになれば、講習會とか著述家とかに雇はれて行つても普通一時間十圓位にはなる。また速記を必要とする新聞社とか會社とかへ入れば月給六七十圓乃至百圓位は支給される。この職業はあまり人に知られてゐないが習得して置けば、他日役に立つものである。

たゞここに注意して置かなければならないことは、小學卒業でも學力は十分であるが、如何に言ふことをたゞ速記すれば好いといつても、先方の喋ることが多少わからないでは、後に普通文字に直す時に、どういふ文字に書き直してよいのか不明な點が出来てくる。そこで社會の一般常識位心得てゐなければ定全な速記は出来ないのであ

る。

なほ、衆議院や貴議院でも必要に應じて速記練習生を募集することがある。然し學力は中等程度でないと採用しないから、小學卒業だけでは駄目であるが、この方に入るやうになれば、確實な収入があつて生活も安定する譯である。普通に速記術を習得した者で新聞社などに入らないものは、寫字生や筆耕などの派出を業としてゐる所へ雇はれてゐて、そこから出張して速記をとり、その幾割かを雇主の方へ收めるといふ風になつてゐる。

小學卒業で獸醫となる道

獸醫は一般の醫者と異つて、犬猫牛馬などを診察したり治療したりする職業で、家畜病院などを經營すれば相等に成功することが出来る。一般の醫師は専門程度の學校を卒業しなければ開業する譯には行かないが、獸醫の方は小學卒業の學力があつて、獸醫の學校を卒業すればよいので、入學程度は高等小學二年若しくは三ヶ年以上の農

業學校卒業生である。修業年限は三ヶ年で、授業料は大抵年額七十二圓位、その他實習費が少額いる。

この獸醫に似た職業で蹄鐵工がある。馬の蹄をとりかへる技術をするもので、この方は獸醫學校の蹄鐵工科を卒業すれば一人前になれる。修業年限は一ヶ年、尋常小學卒業程度でよい。次に獸醫の主なる學校を擧げて置う。

麻布獸醫畜産學校

東京市麻布區新堀町十一

日本獸醫學校

東京府目黒町下目黒五六一

東京獸醫學校

同駒澤町四六九

第三 東京苦學就職案内

東京で苦學しようとする者の爲に

何と言つても東京は日本の心臓であつて、凡ての中心となつてゐるだけに、志を立てて立身しようとする者には都合のよい所である。それであるから、東京で成功しようと思つて押寄せて来る人は實に多數である。學費を特つて出て来る者、徒手空拳、裸一貫で苦學しようとする者、それはその人に依つて様々であるが、ここでは苦學して成功しようとする者の爲に、東京にはどんな苦學の方法があるか、簡單で就職の出来る方法などを知れる範圍で記すことにしよう。

然し斷つて置かねばならぬことは、苦學といふことは並大抵のことでないことを第一に覺悟しなければならぬことである。一口に「なに東京に行けばどんなことをし

ても食へる」といふ。成程、色々な職業があるから何かに就職できるであらうが、それを辛棒して目的に向つて突進するのが困難なのである。もと／＼金を持つて出て來てゐるのでないから、呑氣な生活は出来ない。随分苦しいことがある。この困難に打勝つことができないで、最初上京した時の意氣は何處へやら、旗を卷いて故郷に歸る者が少くない。否、大部分がそれである。一年か二年やつて見て「こんな苦しいなら郷里に歸つて百姓をした方がよい」と泣言をいひ出す。それでは最初の目的が途中で挫折するといふものである。一旦足を踏み出した以上は石に嚙りついても初志を貫徹する勇氣がなければならず、その勇氣ない者は、寧ろ最初から苦學を思ひ止まつた方が上乘である。

第二に健康を考慮のうちに置くことである。一旦苦學をはじめた以上如何なる過激な勞働に従事しないとも限らない。また勞働をしなくても精神上的苦痛も必ず大きいものであるが、かゝる時に際して強健なる身體の所有者でない者は忽ち病魔の冒す所となることは明らかである。目的中途にして病軀を抱いて故山に歸る悲惨は他所目に

見るも哀れである。故に最初苦學を思ひ立つ時に、自分の身體は勞働に堪へ得るであらうか、都會の雜鬧と紅塵の中に立ち交つても十分であらうか、晝の疲れを休める暇もなく夜の學科に就いて勉強することが出来るであらうかといふやうな事を熟考した上でなければ實行にとりかゝつてはならない。

第三に都會の誘惑にかゝらぬことである。東京の暗黒面は想像以上であつて、精神的にも物質的にもあらゆる誘惑の手がのびてゐるのである。その誘惑に襲はれて、降伏してしまふと遂に墮落の淵に落ちて行く羽目になるので、かゝる爲に空しく青春を浪費し、壯年に至つて遂に起つことの出来ない悲惨事を見ることは、枚擧に遑ないほどであるといつてよい。この誘惑の大部分は悪友であつて、最初上京して來た時は、西も東も知らないから、眞面目に學校へ通つてゐる。そのうちに學校で友達が出来た。その友達の中に不良性を帯びてゐる者が非常に多いので、殊に夜學の學生の中に多い。さういふ者に誘われても最初は拒絶してゐるものゝ五度に一度は附合ふといふやうな事から、喫茶店、カフェーを振り出しにして、だん／＼色街に足を踏み入れるやうになり、果ては純然たる不良の徒になつて悪事を働くに至るのである。かうなつて來るともう救はれない。悲しむべき墮落の深い淵にはまり込んで、出ることも出來ず出ようともせず、あたら前途を棒に振つてしまふ。

それであるから上京したら交友は餘程注意して擇ぶべきものであつて、寧ろ同年輩の友人ならない方がよい位のものである。そして目的とする學校に通つて、卒業するまでやり通すやうに心掛けることが第一で、多少の苦しさはあつても學校はなるべく休まぬやうにすることである。學校を休みはじめると、休んだ間の學科がわからなくなる。(殊に私立の夜學校の先生などは小學校の先生などと違つてそれほど丁寧ではなく、どん／＼講義を續けて行く人が多いから一二回講義を聞かないでも不明な點が澤山出來てくるやうな場合がある) 休んで講義がわからないと、その學校に行つてもつまらないから、他の學校に移る。地方と異つて東京には、學校の種類が多く、且つ夜學などは入學規定が比較的寛大だから轉校することは容易である。この癖が一度つくると、また他の學校に移つて見ようといふ氣になつて、絶えず轉々として學校を廻つて

歩くやうになる。俗にこのことを「學校荒し」といつてゐるが、かうなると、もう不良の第一歩を踏み出したも同じである。

編者は上京する多くの青少年を知り、その前途を誤れる者も亦多く見てゐるから、本書を書くに當り敢へて讀者に苦言を呈する所以である。東京に行けば、いつも春風が吹いてゐて、黄金の花でも咲いてゐるやうに思つてゐる都會病者の誠めとならば幸ひである。苦學して成功した者は多い。また苦學した爲に墮落した者も多い。苦學の可否はその人に依つて論すべきもの、讀者は上京の前に必ずこの點を熟考して然る後に實行して貰ひ度い。

苦學に適する様々な職業

次に編者の知り得る範圍に於て東京の苦學生活を記して見よう。苦學には、先づ第一に衣食の道を求めることが大切であつて、それには何かの職業につくことである。その職業の餘暇に學校へ行く方法をとるのが安全の策といふべきであらう。

新聞配達

新聞配達は、賣捌店に屬する者と新聞社の直配店に屬するものと二種類あるが、何れにしても仕事に於ては大差がない。直配所へは本社から午前二三時頃新聞が配達され、賣捌店は十二時頃本社へ取りに行つてやはり午前二三時頃歸つて来る。配達人はそれまでに起きてゐて、自分の配達する枚數だけを折つて、各戸に配達するやうに出かけるのである。受持の枚數は店によつて相違があるが、先づ二百枚乃至三百枚位で、午前五時か六時頃迄には配達が終つてしまふ。朝刊だけならば、これで仕事は終りになるのだが、夕刊を發行するところは、更に四時頃から六時頃までの間に夕刊を配達しなければならぬ。要するに仕事としては、新聞を各戸に配つて歩けばよいので、至極簡單であり、且つ時間は朝だけで、その間は自分の時間として學校へも通へるのであるが、勸誘といふのをやらせられるのが常である。配達がすんで暇がある時は雇主から新聞の勸誘を命じられる。新聞をとつてゐない家を廻つて歩いて取つて貰ふので、これがなかく骨折りで

ある。十軒二十軒を歩いて一軒も講讀して呉れないやうなことがある。また自分の受持區域で、今までとつてゐたものを斷られると、他を勧誘してもその理合せにしかならないやうなこともある。配達人一ヶ月の収入は朝刊ばかりのところでは二十圓から二十四五圓まで、夕刊も配達すれば、二十四五圓から三十圓位になり、勧誘して讀者が増せば、その分は一軒に就いていくらと貰へる。然し、集金までやらせる所は、未集金の分を給料から引くところもある。宿舎は大概、その家に住込んでゐるので、賄がつく時は賄料として十四五圓拂はねばならず、辨當屋から三食とも取寄せても矢張り十四五圓の食費は要するものと見なければならぬ。それに湯錢や小遣、蒲團のないは夜具代などを見積れば、手取りは漸く學校へ通へる程度である。尤も本人の腕次第で、勧誘が上手で毎月何十軒かの申込を取れば、それ以上の収入はある。なほ、最初入る時に雇主から保證金（十圓位）を取られるから、これだけは初めに用意しなければならぬ。

新聞賣子

同じ新聞に關係のある労働であるが、新聞配達と新聞賣子

とは違ふ。前者は定つた得意に對して、定つた新聞を配る即ち月極の配達夫であるが、後者は定つてゐない得意に定つてゐない新聞を賣るので交通の頻繁な四辻とか、電車の交叉點、終點などに立つて「新聞々々」と呼びながら一枚づゝ賣るのである。朝刊と夕刊とあるから、これは午前中から午後、または夜にかけて賣らなければならない。これは賣捌所へ行つてその日の豫定の枚數を買ひ受けて自分で賣るものと、呼賣の元締があつてその賣子となるものと二つに分れてゐるが、賣子となるのが普通である。賣子をして月收二三十圓にはなる。然し配達の方と違つて一定の時間だけ働くといふ譯には行かないから、かなり骨の折れる仕事である。雪の日も風の日も街頭に立つて呼びながら一枚二枚づつ賣捌くのであるからなかく辛い。そして地方から出て來たばかりの者などは、最初は恥かしくて聲が出ないさうである。

牛乳配達

牛乳配達も苦學生には適當した職業であるが、新聞配達のやうに、朝刊ばかりですませられるといふやうな所がないから學校へ通ふには都合が悪い場合もある。牛乳配達にはじめてなつた時は、三四日のうちは故參の配達人について歩いて、配達する家と牛乳の量を教へられ、四五日目から獨りで配達するやうになる。一人の受持は大抵百軒か百五十軒で、午前三時頃、牧場から廻送して来る牛乳を受取り、自分の受持の家へ配るやうに、五勺なり一合なりの瓶詰をつくり、箱車に入れて配達し、同時に前の日の空瓶を集めて歸るので、終つて店に歸ると、その空瓶を洗ひ、車の掃除、店の掃除などをして朝飯を終るのが午前七時頃であらう。それから四五時間は睡眠をとつて、午後三時頃までは自分の時間になる。三時頃から午後六時の配達に出るのであるが、午後六時頃からは朝に比して配達する軒数が少なく、四分の一、五分の一であるから、二三時間で終つてしまふから、午後六時頃から自分の時間となり、通學することも出来る。牛乳配達は全くの勞働であつて箱車に牛乳を満載した時は十三四貫の重さとなるから相等の力がいるわけである。收

入は十圓から十二三圓位、もつとも食費は店主の方で負擔することになつて居り、店に泊るから間代といふやうなものはいらない。それに集金すれば總額の百分の四乃至五は集金料として呉れるから新聞配達よりも収入は少しよい譯であるが、その代り牛乳の空瓶を壊したり、紛失したりすると瓶代を給料の中から差引かれる。

寫字生

訴狀、記録、講義筆記其他百般の書類を、細く筆書きにて奇麗に寫字する商賣であつて、これを請負ふところ(例へば東京市京橋區數寄屋橋外、大成社)があつて、そこに雇はれてゐる。請負者のところには、その得意先である銀行會社裁判所などから寫字生入用の申込が来るので、雇つてゐる寫字生を向けるといふ仕組になつてゐる。寫字は大抵十行二十字詰の用紙に書き、普通一枚五錢内外であるが、そのうち一錢は請負者にとられるから、結局一枚四錢位で大抵は一日三十枚、つまり一圓内外の収入になる。そのうち筆だけは自辨である。なほ、十二行二十五字詰とか三十字詰とかいふ風に字數の多いものになれば從

つて料金も高くなる譯である。また原稿を持ち出すことの出来ない所から頼まれた時は、その家に行つて寫字するが、これは時間制が多く、一時間いくらといふ事になるから、夜までかゝつてやれば収入は従つて多くなる譯である。何れにしても寫字をやれば一ヶ月の収入は大凡三十圓から三十五圓位と見ればよからう。その代り寫字は時間を要するものであるから、夜學に通ふといふやうな時間は餘りない。それに字が上手でなくても細く奇麗に書ける者でなければならぬので、字が汚なければ、折角書を請負者に言うて來ると、寫字生は斷られてしまふことになる。また寫字生と似たやうな仕事で、速寫生といふのがある。これは字の奇麗といふより、早く書けることが第一で、講義筆記の書替へとか、書類を複寫するとかが重なる仕事である。また外出の仕事では豫審調書とか公判始末書とかいふやうなものを寫すので、これは一枚三錢位、そのうち請負者が一錢とれば、結局一枚二錢位で、普通は五十枚位一日に書ける。つまり一日一圓位の収入と見ればよい。

筆 耕 生

これは書籍又は雑誌の發行所、通信販賣業者、大商店などで何萬といふ宣傳文を書出す時に、帶封、封筒、葉書などを書くので、自宅に持ち歸つてすることゝ、その家に出張して書くことゝ二種ある。自宅なり請負業者の家なりで書くのは枚數に依るので、千枚三圓から三圓五十錢程度であるが、そのうち請負者に上前を取られるから二圓から二圓五十錢位、最初は一日四五百枚しか書けないが熟練して來れば七八百枚は書ける。また家に出張する時は、一日三圓から三圓五十錢位で、午前九前から午後五時位まで、尤も時間を延長すればそれだけ割増になることは勿論である。また仕事に依つてペン書きと筆書きがあるが筆書きの方は値段が高い。大體に於て一日の収入は一圓から一圓五十錢と見ればよいだらう。この職業は最近需要がかなりあるので、東京にも此の請負業者が澤山出來てゐる。筆耕をしようといふ者は、請負業者に雇はれてゐて、その仕事をやるなり、そこから他へ派出されるのが普通である。

住込書生

書生といつても雇はれる家に依つて種類があり、待遇もまた様々である。然し、書生といふ以上はその家に住込となるので、食料、夜具、間代などの心配はいらない。醫師、辯護士、實業家などいろいろであるが、大抵は、夜間に通學できる。東京に出て苦學する者のうちで、此の住込の書生は非常に多く、小學でも卒業してゐて、二十歳前後までの者ならば口があり次第雇つて呉れる。給料は、醫師や辯護士の書生は割合に安く、五六圓から十圓位（これは、書生をしながら、その家の仕事を覚えられるからで、將來藥劑師にならうとか、辯護士の試験を受けようとかする者に都合がよい。）其他の家ならば、十圓から十五圓位まで呉れる。これだけの給料を貰へば、十分通學が出来る。但し、住込みになるのだから、朝の掃除とか雑用とかいふものは命せられる通りにしなければならぬし、家族の人達の機嫌を損じないやうに勤めなければならぬ。

小 店 員

昔は商店の小僧といへば年期奉公が多く、十年も二十年もその店にゐて商賣を覚え、店を分けて貰つて獨立するといふ風であつたが、今では社會狀態の變遷に伴ひ、かういふ風習は漸次なくなり、店員として單なる雇人になり、給料で使はれるやうになつた。丁稚小僧といふ言葉さへ廢れ小社員といふ様になつたのは甚しい變り方である。さて商店の小僧となるには、尋常小學卒業の學力があれば十分で、無論住込み、朝から寝るまで店の用事をして、最初は僅かな小遣位で働く。そのうち主人の信用を得てくれば、重用されて來るので、何れにしても謹直に働くことが第一である。然し、夜學にやつてくれる店は少ないと思はねばならない。大商店なら兎も角、普通の商店では朝から晩まで店を張つてゐるのだから相等に用事も多く、通學の餘暇などはないから、勉強するならば店を仕舞つてから、講義録なり参考書なりに就いてやることである。また三越とか松屋とか白木屋といふ様な大商店になると、勤めは朝の何時から午後の何時迄と定つてゐて、夜學校の設備まで出來てゐるから、寄宿舎にゐて學校に通つてゐると變りなく、給料も相

當に貰へる。これは毎年小學校の卒業期になると廣く各地から募集して人物試験の結果採用になるので途中から入るのは一寸六ヶ敷い。募集の廣告が出た時に應じるのが一番よいが、普通の商店なら、缺員があり次第入ることが出来る。小店は十五六歳位が最も歓迎されて、二十歳以上の者は餘り使ふ所がない。

給 仕

役所、銀行、會社などの給仕となるも苦學の一方法である。給仕募集は缺員がある時には、よく新聞廣告に出るしまた友人知己を迎つても容易に就職することができる。銀行や會社は、朝九時から四時までとか五時迄とかいふやうに時間がキチンと定まつてゐるので、それ以外は自分の自由な時間であるから通學には都合がよく、給仕をしてゐて夜學に通つてゐる者は随分澤山ある。給料は色々で一概にいふことは出来ないが先づ二十圓から三十圓位は貰へる。但し、これは住込でなく通ふのだから、食費とか間代とかいふものは自辨であり、遠い場所ならば電車賃もいる。自宅から通ふ者は別として、自活する者なら相

等費用がかかるから餘程儉約しないと通學出来ないことになる。なるべくなら在京の親戚とか知合とかを頼つて置いて貰ひ、少しでも食費のかゝらぬやうにするのが得策である。給仕となる條件としては、年齢は先づ十七八歳までで、身體の強健な者であることは勿論であるが自轉車位に乗れないと困る。

事 務 員

事務員はやはり銀行會社に勤めるのだが、給仕よりは高級である。給仕はほんとうの走り使ひであつて、電話の取次使ひ歩き、雜用などをするに過ぎないが、事務員となると、會社の仕事を手傳ふので例へば書類を整理するとか帳簿をつけるとかいふやうな、とにかく一人前の仕事になるのである。この方は従つて給料も高く、三十圓から四五十圓になるが、小學卒業程度では採用が六ヶ敷い。少くとも中等學校を卒業してゐなければ、最近就職難の爲に相等の教育を受けた者がどん／＼事務員希望で来るやうになつたから、それ等の人々と競争して採用にならうとするには、餘程才が利く者とか、何か専門的の技能を持

つてゐる者とかでないといふ困難である。

事務員には、臨時事務員といふのがあつた。これは何か一つの仕事を爲すに人員が不足である、といつて一週間か一ヶ月位で済むのだから社員を増す程ではないといふ時に、臨時に雇ふのである。新聞廣告で募集する場合もあるが、かういふ者を請負ふ所があつて、その請負業者の手で一日いくらで雇はれるのである。請負者は前に述べた寫字生、筆耕生などを請負つてゐる所であつて、日給は一日二圓なり二圓五十錢になるが、請負者に上前を取られるから實収入は一圓か一圓五十錢位である。

家庭教師

家庭教師は體裁のよい職業である。良家の子女の復習や豫習をしてやつたり、自分が音楽とか繪畫とかに堪能であれば、それだけ教へてもよい。これには通ひと住込と二種類あつて、通ひの方は自分の閑暇を見て、午後又は夜その家に行き教へるので、住込の方はその家に住込んで、閑暇あれば子女の相手となるのである。収入は通ひならば十圓とか十五圓とかの謝禮を

受けるし、住込なれば賄附で、やはりそれ位の給料は貰へる。苦學する者は、良家へ住込んで學校へ通はして貰ひ、その代りその家の子女の相手になるといふ者が多く、性質よく眞面目であれば主人に見込まれて養子になるといふやうな意外な幸福が廻つて來ないとも限らない。家庭教師をするには、少くとも専門程度の學校を卒業してゐるか又は通學中の者でないといふと、雇ふ方で雇はない。専門學校や大學へ通つてゐる者でこの家庭教師をしながら苦學して卒業し、立派に成功した者が少くないから、大に注意を強うするに足る。

雜誌配達

最近は何れも雜誌が流行して、貸本屋が廢れるといふ傾向になつて來てゐる。回覽雜誌といふのは一ヶ月一圓乃至一圓五十錢の會費を出して、自分の好きな雜誌を一ヶ月に十種類位讀む。即ち四日に一度新しい雜誌が配達されるので本屋から一雑誌を買つて讀むより安く上る。東京では回覽雜誌を經營してゐる雜誌回讀會なるものが非常に繁昌してゐるが、この雜誌を持

つて會員に配達して歩くのが廻覽雜誌の得意廻りである。仕事は午前八時頃から午後四時頃まで、雜誌を自轉車に乗せて間違ひなく配達する迄のことであるから至極簡單で誰にも出来る。たゞ注意すべきは、カードに依つて間違ひないやうに配達し、読み終つた方の雜誌を持つて歸ることを忘れてはならない。収入は一ヶ月二三十圓程度であるから、夜學に通學することは自由である。たゞ日中方々を駆け廻るので、身體が疲れてるから、餘程の決心がないと夜學に行くのが厭になつてしまふ。これはその人の決心一つである。

行商人

行商人といふとその種類は非常に多いが、魚や青物などは仕入から賣捌まで經驗がなくては出来るものでなく、苦學生では到底見込がないが、割合に簡單で體裁のよいのに文房具行商がある。筆、紙、ペン、インキ、封筒、用箋などの文房具類を三四十圓仕入れ、一箱背負つて歩く位十分あるから、これを資本として一軒毎に賣つて歩くか、または會社、役所のやうな

所に行つて買つて貰ふのである。歩いても軒並買ふ家は少く、多くはお斷りを食ふがそんなことには構はずに根氣よく廻つて歩くことである。十軒に一軒は買つてくれる。中には苦學生だといふ所に同情して思はぬほど澤山買つてくれる家もあるから左程心配することはない。朝から夕方まで賣り歩いて、晩は學校へ通ふといふ風にすれば、これでもやつて行けないことはないので、行商の秘訣としては決して高く賣つてはいけない。儲は少くても數を多く賣るといふ方針で、態度は何處までも學生風を失はずに眞面目で行くべきである。

氷の配達

此の職業は夏だけであつて冬は駄目である。夏の六、七、八、九の四ヶ月間は市内に配達する氷が非常に多くなるので、製氷會社とか冷蔵會社とかは臨時に配達人を募集するのである。配達人は牛込とか日本橋とかいふ風に夫々受持區域があつて、毎朝何十貫の氷を車に積んで、得意先を廻り、一貫目とか二貫目とか約束してある分量に截つて渡す。冷蔵用に氷を使ふ所で

は、夏中は朝夕配達させることもあるから、この仕事は先づ朝から晩までと言つてよく、車に積んだ荷物は氷だから冷たいこと限りないが、眞夏の炎天を引き廻る方は汗まみれである。苦しいにはし辛い仕事である。収入は一日一圓から一圓五十錢位。苦學生は夏休みの間に學費を稼がうとしてこの募集に應じる者が少くないが、何といつても車を引くことであるから、ほんたうの筋肉労働であつて身體の強健なものでなければ勤まらない。

臨時驛夫

夏は避暑旅行や學生の歸國で鐵道荷物が輻湊し、年末近くになると歳暮の贈答品で荷物係はなか／＼忙がしい。この時は、上野、兩國などの大きな驛では、從來の驛員だけでは手が足りなくなるので臨時に荷物係を募集する。日給は一圓五十錢位、荷物の運搬や整理が主なる仕事であるが、屋内労働であるからそれ程苦しいことはない。歸國してゆつくり休まうと思ふ人はとにかく、東京で苦學する者は寸暇も利用しなければならぬから、臨時にかういふ職を求めて學資の一端とするもよい事であらう。

食堂給仕

近頃食堂は非常に殖えて（ここでいふ食堂とは料理店や飲食店の意味でなく、公衆食堂、又は官廳や會社の中に附設してある食堂を指してゐる）食事を持ち運ぶボーイが望まれてゐる。公衆食堂は多く市設であるが、内務省とか大藏省とかいふ官廳又は大きな會社では請負人に食堂を經營させて安價で甘味いものを食べるやうにしてゐるので、食堂へ食べに来る者に注文品を運び、又は事務室まで持つて行くのがボーイの役目である。かういふ種類の食堂は大抵、朝食と晝食に限られて居るので、晝間だけの仕事で夜は通學することが出来る。また夜間もある食堂では一日交代に夜業するやうになつてゐるから都合すれば通學できないこともない。ボーイは住込（食費つき）で給料を十圓から十四五圓位貰へる。

以上舉げた他にも純粹の筋肉労働者や其他様々な職業がある。それを一一記すことは限りある紙数の許すところではないから、此の位で止めて置く。青少年諸君に出來さうな仕事、苦學生として通學なり勉強なりの餘暇が少しでもありさうな仕事を擇んで列舉したまでである。次に、さういふ職業は、どういふ方法で探したらよいかといふことに就いて述べよう。

上京して就職口を探す方法

大都會の真中へ出て、地理さへ判らない者が、どうして職業まで探すことが出來ようか？ さう思つて迷つてはいけない。今日文明の都會には、職を求める人が多いと同じく、また人を求めてゐる所も多い。求職と求人との二つがうまく合致すればよいのである。では、東京に出て職を求めるには、一體どうしたらいいか、どんな方法があるか。

東京市内及近郊に、親戚なり知人なりがあつて、その人達に職を探して貰へる者は

別として、東京で職を求めるには、次の三つの方法がある。

(一)新聞の廣告。(二)周旋屋或は私立の紹介所。(三)公立の職業紹介所。

新聞廣告とは東京の各新聞の家内欄をさしていふのであつて、人を求める會社なり商店なり個人なりが、この欄に雇入れの廣告を出して必要な人を募集する。で希望する職業を見出したならば、その廣告主、即ち雇主の所へ行つて雇つて貰ふ。新聞と云つても、現在東京で發行されて居る數は、特殊な新聞を除いてざつと十數種あるのでその全部の新聞を見ると云ふ事は經濟上損だし、一寸出來ない。ではどの新聞がいいかと云ふと、何と云つても、求人廣告の多いのは、東京日日新聞と時事新報だらう。次は報知新聞、朝日新聞、國民新聞、やまと新聞、東京毎夕新聞などであらう。この新聞廣告に依つて職を求める事は、次に説く紹介所などより簡單であり、時には思ひもよらぬ出世の緒となつたりする事もあるが、本來の性質上、自分との競争者が多くある事を念頭に置かねばならない。勉學するものに、都合のいい場所に在り、また雇入れの條件が有利になる程、この競争者は多くなるばかりである。何十人、或は何百

人と云ふ多數の求職者が、その廣告主のところへ押し掛ける様な事もあつて、その中から選ばれるのであるから、雇主と會ふ時の心掛は、上京する前に、自分の先生なり親しい老人に教はつて置かないと思はぬ失敗をすることがある。

次の周旋屋については、金を儲けるのが主眼の商賣なのだから、馬鹿に都合のいい話にうつかり乗ると、大變ひどい目に會はされるばかりか、折角持つて來た金も無くして、それこそ路頭に迷ふ様になる者が、事實多くあるから注意しなければならぬ。

公設の紹介所は云ふまでもなく、府縣或は市町村立のもの及社會事業團體立のものであつて、國家の管理の下に補助金を下附せられて、無料で一般に職業を紹介する所を云ふ。始めて東京へ出て來られる諸君には、この紹介所に就いて職を求められるのが、一番安全で一番確實である。

東京に於ける公設の職業紹介所

東京で市立又は府立の職業紹介所は現在のところ次の通りである。

- 東京府立職業紹介所 (小石川區諏訪町)
- 同少年職業紹介所 (同)
- 東京市立中央職業紹介所 (神田區神田橋際)
- 同 上野職業紹介所 (下谷區上野驛前)
- 同 大塚同 (小石川區大塚辻町)
- 同 少年同 (同 區大塚坂下町)
- 同 新宿同 (四谷區花園町)
- 同 芝園橋紹介所 (芝區新堀町)
- 同 坂本公園職業紹介所 (日本橋區茅場町)
- 同 淺草橋同 (日本橋區馬喰町四丁目)
- 同 淺草公園同 (淺草區馬道一丁目)
- 同 業平橋同 (本所區中の郷業平町一七二)
- 日本基督教青年會職業紹介所 (神田區美土代町)

市立では此の外日傭及技術労働者専門の紹介所が四つ、團體立のものが五、六ヶ所それに婦人専門の紹介所が府立一、市立一ある。少年紹介所と云ふのは十六七歳以下の少年を扱ふ。これらの紹介は、朝八時頃から受け付けを開始する。で地方から上京する諸君は、朝七時半頃までに東京に到着する汽車を選ぶ必要がある。おくれたり午後になつたりすると、折角いゝ就職口があつても、他の者が先へ行くから、朝は早くいゝつて、出来得ればイの一番に、紹介してもらふ様に心掛ける事である。但し日曜日はどこの紹介所も休みである。

無料で泊れる公設の簡易宿泊所

うまく就職口が見つかり、そして其の仕事が住込の仕事だつたならば、それでよいが、不幸にして其の日は適當な職業がなかつた時、紹介されて折角雇主の所へ行つたのに、交渉が破れた時、また雇はれた仕事が通勤の職だつた時は一寸困る。さう言ふ場合に出會つたら、どうするのが一番いゝかに就いて、心得て置く事もあながち無用

ではあるまい。もし上京した日に適當な職が無かつたり、交渉が成立しなかつたりして、其夜を過さねばならなくなつたら何處に泊るか。相當餘裕ある金を持つて居る者は、宿屋に泊るのもよい。だがさうでない者は、次に示す簡易宿泊所を選ぶのが、一番金のかゝらない方法である。普通の宿屋とは違ふ。食事はつかず、一部屋に何人かゝ一緒に寝なければならぬが、それ位の辛棒は仕方がない。

簡易宿泊所は、東京市立のが左の八ヶ所ある。

玉姫簡易宿泊所 (淺草區玉姫町)

横網同 (本所區横網町一丁目)

元町同 (本所區回向院境内)

林町同 (本所區林町三丁目)

柳原同 (同 柳原町三丁目)

深川公園同 (深川區深川公園内)

濱園同 (同 濱園町)

太平同(婦人に限る) (本所太平町一丁目)

また私立のは、右の外に約六、七箇所ある。

簡易宿泊所の宿泊料は市設のでも私立のでも、一晚十五錢から二十錢まで、夕方四時頃から受け付けを始める。早く行かないと満員で、追ひ歸される事があるから注意を要する。

安價な生活法と市設の公衆食堂

東京で生活するには、次の三つの方法がある。

(一)下宿屋。(二)素人下宿(賄付貸間)。(三)間借り。

下宿には色々あるが、安い所でまづ一ヶ月三十五圓以上だと思へば間違ひはない。早稲田邊や、また小石川の或る場所では、もつと安く、二十七八圓の所もある。

素人下宿と云ふのは、自分のうちで間を貸した人に賄をしてゐる、賄付貸間の別名なのでこれは大體、部屋代(一疊當り一圓五十錢位)に賄代二十圓前後が普通である。

間借りは、市内では一疊當り二圓乃至二圓五十錢が普通相場で、三疊間一七圓。四疊半一十圓乃至十二圓。六疊間一十二圓乃至十五圓位だ。新しい家だったり、馬鹿に便利のよい所だと、時には一疊三圓も、それ以上も取られる事がある。かうして間借りをして、食事はどうするかと云ふに、次の公衆食堂を利用するのが、一番經濟的である。

東京市立九段公衆食堂 (麴町區飯田町)

同 眞砂町同 (本郷區眞砂町)

同 神樂坂同 (牛込區横寺町)

同 上野同 (下谷區車坂町)

同 兩國同 (日本橋區兩國公園内)

同 猿江同 (本所區猿江町)

同 大塚同 (小石川區大塚仲町)

右のうちで、兩國と猿江を除いた他の公衆食堂では、お客の過半数は學生である。

朝食十錢、晝食十五錢、夕食十五錢、こんな安い食料で腹一ぱいになる。

私立の公衆食堂も段々出來て、五、六ヶ所あるが、食料はどこでも市設のと同じ様にして居る。また公衆食堂でなくても、市内の各所にある通稱「繩のれん」と云はれてゐる飯屋も、せいたくすれば切りがないが、公衆食堂と大して違ひがない。おかすが選擇できるので、めし屋ばかりで喰べて居る學生もある。

大急ぎで間借りをしようと思ふ者は、止むを得ないから、私設の貸家貸間紹介所と云ふのが神田、下谷、本郷、小石川などには澤山あるから、そこに頼むといふが、此の場合は手数料を取られる。最初に申込金として一圓、紹介して貰つて借りると話が定まれば、間代の二割即ち十二圓の間代ならば二圓四十錢だけコムミッションとして都合三圓四十錢を拂はなければならないが、一々その家へ連れて行つて呉れるので、始めての者には大變都合のよい事もある。それが厭なら又新聞の案内欄を探すのである。それか、又は半紙四ツ切位の紙に「貸間あり」と書いて、よく人目につく様な場所の扉や、電柱などに貼つてあるのを探すのもいゝが、これはある時には、めちや

くちやにあるが、ない時には何處を探してもないことがある。公設の機關がないかと云ふと、さうではない。が唯の一ヶ所しかない。場所は、京橋區鍛冶橋際の市社會局公營課内貸間無料紹介所である。こゝへ行けば樂に、手数料も要らず自分の思ふ様な場所に簡単に紹介してもらへる。

苦學生活の偽らざる體驗談

次に記す數篇は、何れも過去數ヶ年の間に於て東京で苦學した人の偽りのない體驗記であり、眞實な告白である。これによつて讀者は東京の苦學生活が如何なるものであるか、その大體を知り得るであらう。勿論様々の人が様々な生活をするのであるから、直ちに諸君に眞似られるといふことはないが、その幾分なりとも上京の雄圖を抱く諸君の参考とならば幸ひと思つて掲げる次第である。

【その一】新聞配達三年間の奮闘録

一度東京に出て病氣となり、一旦故郷に引かへした私は、やうやく病氣も全快したので、出京の念止み難く、直ちに上京して完全でない身を××新聞の〇〇出張所に託した。病で死んだと決心した自分だ、總ては死と思つてやれ、湧然と私の頭には元氣が起つて來るのでした。朝は三時半起床、硝子戸のきしる音と共に直ちに紙折が開始せられます。約四十分の後、冷なハンテンを着て配達に出掛けます。紙數約二百位、時間は二時間以上、歸るや否や直ちに仕度そこ／＼辨當を頬張つて我が最大目的たる豫備校へと通ふのでした。

其頃は學校は午前中でしたから、歸所すると一時頃でした。故に夕刊の前三時頃までは専心數學に力を注ぎ、九月の中學校第三學年編入の準備に没頭致しました。(然し決して新聞配達は愉快な者ではありません。夏は殆ど人の午睡の間でも、一心に机上を見つめて居りました。而し氣はあせるばかりで一向能率は上りません。無理からぬ事です。睡魔が遠慮なく襲つて來ます。かくして九月一日のK中學編入試験に應じましたが(勿論自信は無かつたのです)、豫想通り失敗しました(其の時の受験者は約百

八十五人合格者十二人でした)。私は豫期はして居たもの、残念でなりませんでしたが、焦つた爲に失敗した事を悟り、最後と思つて翌年の九月、丸一年の間、準備に掛らうと決心して、翌日より又々懐しの豫備校へと通ひました。今度は午前を英語に、午後を數學に専心勉強し、夜の間を見ては外の學課をやりましたが、午後は三時頃までしかやれません。夕刊を配達せねばならないので急いで歸るを常としました。そのうちに學費がつかなくなつて七月よりは學校の方を中止して、友の午睡の間も殆ど本を手放さず睡魔と戦つて、ひたすら九月の戦機を待ちました。

私は八月十五日願書を市外にあるK中學に出し、九月一、二の二日間の試験に、つひに私の苦闘は報ひられ、私の名を校庭に見出した時、私は總てを感謝致しました。中學三年級ではあるが、自己の苦闘によつて得た戦勝は、年正に十九歳の苦學生を喜ばせてくれたのです。然し生活の苦しさは悲惨でありました。何故なればわづかに二十五圓の月給に、責任をどし／＼負はされて、學費さへ足りないのです。私は餘分に常に働き、苦しさを耐へ忍んで、母を思ひ、姉を思つて總ては自己の爲めと足掛四年

同一出張所に勤めました。

過去現在を通じて、三ヶ年以上同一新聞屋に務め、通學をなさつて來た人は全國に於て百人に對して一人弱と私は信じ此處に斷言致します。或る本で或る學生は自己の經驗から新聞配達苦學不可能と説明して居たのを私は讀みました。然し不可能でない事を私は茲に斷言する者であります。新聞配達の最も苦痛至艱なのは、第一に勸誘(讀者を取る事)です。大半の苦學生は之によつて、失敗致します。晝となく夜となく、或は夏の酷暑の下に、或は寒風身を刺す冬の夕に、常に私は望郷の念に誘はれます。(勸誘の出來ない人は解雇の憂目に會ふのです)。

そして主人の苦學生に對する無理解、之は自己の利益の爲めに殆ど全部の人が苦學生を苦しめて居ります。私は此の苦しみに耐へて今卒業の目前迄進んで來た一人であります。他に集金の大責任のある事は實に忘れられぬ事であります。

嘗ては毎年の年末大勸誘には、學年試験と共に強制的に夜十時頃まで、十二月の空に手の凍を磨り乍ら涙を流した事も數度がありました。更に私は勤續三年の今日迄に約百二十人位の苦學生の出入のあつた中に、誰一人として私と肩を並べて此處迄來た人の無い事を記して置きます。

〔その二〕 食堂のボーイをして學校へ

愈々多年憧れて居た上京の日は來た。滿一年間沈淪した灰色の生活より脱け出でて新しい自由の天地に思ふ存分翼を擴げることの出來る解放の日は來た。父母や姉や多くの友人に見送られては、不安、寂寥、悲哀、歡喜、理想、かうした心を抱いた一青年を乗せて、汽笛一聲汽車は多年自分の憧れて居た東京へと向つた。別に知人もなかつた自分には、一人で職業を探さねばならなかつた。それで随分苦勞の末、神田昌平橋際の神田慈善協會經營の昌平橋簡易食堂に雇はれることゝなつた。この食堂に就いて大體を記せば左の如くである。

(一) 仕事 午前六時—午後八時半迄。

(二) 給料 初給日給三十錢(但食費支給)。

(二) 休日 一ヶ月二回(交代)。

(四) 晝夜通學自由(晝夜交代して勤務)。

(五) 其他雜務あり、寄宿舎あり、無料。勤務時間は六時より八時半とあれども、晝夜の二部制にて交代するので、その餘暇十分通學出来るのである。そして私は此處に勤務して東京××學校三年へ編入したのである。

〔その三〕 一ヶ月二十圓で出来る生活法

私の家は貧しいけれども、東京に出て學問をするといふことを父が許してくれたので、早稻田の××科へ通ふことが出来た。勿論苦しい境遇の所から、學資を出して貰つてゐるのだ。勢ひ苦學しなければならぬ。然し十七年間を田舎で暮し、生れて始めて東京と云ふ一種不可思議な存在の中へ抛り出された自分にとつて何が分らう。又生來蒲柳の質の虚弱な自分に今すぐと云つて何が出来やう。故郷の父からも「せめて東京の事情が少しでも分つてから」と強ひて云はるゝまゝに、まづ當分一學期の間だ

けは出来るだけ切りつめた生活をしてみやうと決心した。以下は實際の經驗に依る、ありのまゝの生活記録である。

- 五圓 三疊間代(市外高田町)
- 十二圓 めし屋食費代一日四十錢
- 約一圓 電燈代
- 五十錢 風呂錢(三日に一度)
- 一圓五十錢 學用品雜費

合計二十圓

以上は勿論授業料書籍代も含まず、唯住食のみであるとは云へ、二十圓で一ヶ月をやつてゆく事は可なり——可なり所ではない、極端にみぢめなものだ——苦しい。氷屋やうどん屋の前は目をつぶつて通り、又鍋焼屋の前を通る時は、匂で腹をふくらます。生活ほど、悲惨なものはない。又新聞も雜誌も讀まぬ生活ほど無味乾燥なものはない。然し幸な事には圖書館があつて、我等貧書生を救つてくれる。

さて前述の説明であるが、間代三疊五圓は非常に安い。五圓位で貸す様な家は中々見付かるものぢやない。それも裏町の静かな日當のよい二階である。僕は早稲田附近にある貸間紹介所で偶然に之を探した。諸君の内でも安い貸間を探さうと云ふ方は、始終貸間紹介所と云ふ様な所を注意してみるといふ。

食費は朝十三錢、晝十七錢、夜十七錢、朝十五錢、晝二十錢、夜二十錢等と色々あるが、僕は朝十錢、晝十五錢、夜十五錢で我慢した。飯の量には變りはない。菜の質か量に多少の變りがあるのみである。

「その四」 東京の自炊生活の實際

私は同郷の者と二人で上京し、東京のある學校に通ふことになつたが勿論貧しい中から學費を送つて貰ふのであるから、出来るだけ儉約しなければならない。それで友達と二人で自炊生活することに決心し、其の翌日から二人で貸間をさがし始めた。時々二階貸間ありの紙が貼つてある。田舎から来たばかりの二人は、恥しがつて中々

聞きに入らない。其前を行つたり來たりして居る。我慢して入る。「今日は」ハイと云つて奥から出て來る。お宅に貸間が有る様ですが、どんな室でせうかと恐る／＼聞く「エ、八疊です。間代は電燈付二十圓位戴きたいのですが」、「あゝさうですか」心の中では全然駄目と思つたのでうまくごまかして逃げる様に出て來る。こんな風な事を五六軒もやつたが、我等の要求する家は一軒としてない。僕等の要件は、一、自炊の出來る事、二、六疊で八圓より十圓まで、三、閑靜で同宿無き事、四、電車に便なる事等で、東京を何にも知らない者が初からこんな自分に都合の良い要件で探して居るから之に該當する家の無いのは當然であつた。二人で市内と云はず府下と云はず、足の向くがまゝに二日探し歩いて、やう／＼やゝ適當の家が山ノ手に見付かつた。それでやう／＼宿屋から荷物を運んで、箱の様な六疊の間で起居する事になつたのである。全く始めて間を借りた時は狭くて、何となく壓しつめられて居る様な感じがして物足りなかつた。

家が見付かつたので、愈々自炊生活が始まるのである。先づしちりんを買ふ。釜、な

へ、茶碗等と、一通りの物を買った。若い坊主頭の書生がこんなものを買ふのは、實に恥しい。尙八百屋、魚屋等のおかみさん下女連中の中へ入つて、ネギ五錢味噌十錢と買ふのは、今でも恰好が悪い。餘り妙齡の婦人が居ると、物を買はないで歸つて來る事が度々ある。實になさけない事だと思ふが仕方がない。初の内は飯をこがして困つたが、遂には下手な女より上手になつた。朝起きると、一人が炭を起す一人が米を磨ぐのである。學校の遅れる様な時は出來ないのを食べて行く時も度々ある。

僕等は月二十五圓をどんな風にして費ふかと云ふと、間代(十圓)、木炭(一俵)、米二斗(三等米)、醬油(一升)、味噌、雜費(野菜)、新聞雜誌、電燈料(百燭)で、二十一圓七十錢、之は二人共同の費用にて、此れを二等分すると一人が十圓八十五錢。此の他各自の學校迄の乗車券一ヶ月二圓五十錢。風呂代一圓、學用品ノート其他二圓。本は圖書館を大いに利用することにして、學校の諸會費五圓、其の残りを小使に充てれば立派にやつて行かれる。僕等は小使は殆んど要らない位であるから、二十五圓で餘つた月もある。

〔その五〕 家庭教師とその就職法

家庭教師をして月に二十圓位の収入があれば、東京では自活してやつて行ける。自活といつても、ほんたうに極度まで節約しての話である。家庭教師をやるには(一)自分が新聞に廣告して行くのと、(二)先方の廣告によつて行くのとある。僕が家庭教師業を開業した時は「××新聞」に廣告して行つたのである。廣告料は二圓五十錢匿名(姓名在社)五十錢増である。(二)の先方の廣告によつて行くのはその廣告が出る事が少いだけに困難である。需要一に對する供給五といふ關係にあるとはよく世間でいふことである。「招聘」の廣告はあまり出ないけれども、月に二回位は出てゐる。「家庭教授受度中學一年代數英語」と云ふ様な形式である。

「教師家庭ニ入用當方小學四年女兒履歴要本人午前中來談」

「家庭教師至急招聘中學四年全科復習住込若クハ午後四時後凡ソ四時間履歴書送附

又ハ御來談」

といふやうな廣告を見て行くのである。

第四 女子小學卒業者立身就職の道

小學卒業の學力ある女子が經濟的に獨立して行くにはどうすればよいか。矢張り職業婦人となつて生活の道を立てるのが一番よい。職業婦人は、高等女學校を卒業してゐると都合がよいが、小學卒業でも就職の道はかなりある。次にそのうちで適當と思はれるものを記して見よう。

容易になれる助産婦と看護婦

助産婦(即ち産婆のことであるが近頃は専ら助産婦といふ言葉が使はれてゐる)と看護婦とは婦人獨特の職業であつて男子にはない。そして比較的容易になれるから此の希望者はなかく多い。

助産婦になるには、帝大附屬病院、官私立病院の附屬産婆講習所に入るか産婆學校

に入つて學術を修業し、實地について一年か二年も修得すれば各府縣廳で行はれる助産婦認可試験を受けることができる。この試験に合格しないと資格はない。學力は高等小學卒業程度で十分であるが、さて試験に合格しても、一ケ年位は病院か産婆に就いて實地に研究しなければ十分でない。開業するとして器械代が百二十三十圓もあれば、家屋も別に外見を張る必要はないから割合に容易に開業できる。収入は、出産の謝禮が少くとも十圓から二十圓位になるから、頼み手さへ多くあれば一ケ月二百圓位にはなる。

看護婦になるには、地方長官の指定學校、又は大學病院、赤十字社病院等の附屬講習所であるか、又は各府縣の看護婦試験に合格した者でなければその資格がない。看護婦試験は學力は尋常小學卒業でもよいが、二ケ年以上看護婦の學術を修業した者と、いふことになつてゐる。看護婦には病院附と看護婦會附とある。病院附は一等、二等、見習の區別があつて、食費は別として一ケ月二十圓以上三十五圓位で、特別の附添看護婦になれば一ケ月百圓位の収入はある。私立の看護婦會から病院又は患者の家に雇はれた場合は、その看護婦會に依つて一定してゐないが、先づ三十圓以上八九十圓位までの収入がある。次に東京の此の種の學校を紹介しよう。

- 慶應義塾大學醫學部附屬看護婦養成所 東京市四谷區西信濃町
- 同 産婆養成所 同
- 小鷹産婆學校 東京市本郷區曙町一
- 泉橋慈善病院附屬産婆看護婦養成所 同 神田區和泉町一
- 濱田産婆學校 同 神田區駿ヶ臺袋町
- 中央看護婦學校 同 京橋區築地三丁目
- 東京看護婦學校 同 神田區西小川町一ノ一
- 東京産婆看護婦學校 同 芝區愛宕町二ノ二
- 東京産婆看護婦學校 同 下谷區龍泉寺町四一四
- 東京助産女學校 同 神田區三崎町三ノ一三八
- 東京助産學專修學校 同 麴町區土手三番町二一

日本產婆看護婦學校

同 麴町區麴町一ノ十九

水原產婆學校

同 神田區表猿樂町十二

給料の高い女子簿記計算係

一體女子の頭惱は綿密であるから、簿記とか計算とかいふ方には適してゐる。殊に算盤を弾き、ペンを走らす指先の仕事であるから男子よりは成績よく各方面から歓迎されてゐる。この職につくには、簿記學校に半年か一年も簿記と珠算を勉強すれば十分であつて、小學卒業の學力でもよいが高女卒業者なれば月給も多くとれる。官廳、會社、商店など何れの方面にも迎へられ、殊に大商店よりは小商店、カフェー、料理店などの小額の金錢の記帳計算する仕事によく、初任給三十五圓位から昇給して行つて最高七八十圓位まではとれる。簿記學校は夜間も授業があるから便利である。

大原簿記學校

東京市神田區美土代町

村田簿記學校

東京市神田區仲猿樂町十七

需要の多い婦人タイピスト

タイピストは婦人の仕事として指先を動かすことであるから最も適當してゐる。商店、會社、官廳など需要は今後益々多くなつて行くであらう。邦文タイピストの方は小學卒業でも十分であるが、歐文タイピストの方は高女卒業の學力が必要である。このタイピストを養成する學校は東京に澤山あるが、何れも月謝は五圓位で、練習期間は約四ヶ月である。就職後は、邦文が三十圓乃至四十圓、歐文が四十圓乃至五十圓位で、これも長年勤めれば漸次昇給する。現に大會社のタイピストで二百圓位の給料をとつてゐる者は少くない。

東京タイピスト學校

東京市神田區三崎町二ノ五

女子青年會タイピスト學校

同 神田區三崎町

日本タイプライター學校

同 京橋區南傳馬町

小學卒業でなれる貯金局事務員

逓信省貯金局では高等小學卒業で十四歳以上の女子を試験の上事務員に採用してゐる。高女卒業であればなほよい。試験は、數學、珠算、國語、體格検査、口頭試験であつて、合格すれば三ヶ月養成所に入つて、計算と記帳の事務を修業する。初給は小學出が日給七十錢、高女出は九十錢で、勤続年限によつて勤勉手当、恩給、退職手当の制もあり、二年間ゐて成績がよければ判任官に登用される。また勤続年限が長ければ百圓以上の俸給を貰へる。現に貯金局に百三十圓の俸給をとつてゐる女子判任官が數人ゐる。その募集は、官報又は新聞に公告されるからそれを見ればよい。

判任官に昇進する女子通信事務員

前の貯金局事務員と異り、これは全國の郵便局に配屬される、通信事務員であつて何處の郵便局に行つても女子の事務員を見受けるが、此の通信事務員となる近道は、逓信講習所に入所することであつて、官費で入所が出来、勤務後の成績によつては判任官となることも出来る。詳細は、男子のこの章に就いて見られよ。

電話交換手となるには

女子電話局員は電話を交換する仕事をやる者であつて、現在東京だけでも交換手の數は約三千五百人あり、其他會社商店などの私設の交換臺に働いてゐる者を合せれば八千人以上であらう。交換局に入るには、尋常小學卒業以上で、十四歳以上二十三歳までの獨身者に限り、三ヶ月間局員養成所に入つて日給六十五錢を給せられるが、養成所から出て交換事務に従事するやうになると、日給八十四錢を給せられる。外に若干の手當があり、勤続年限によつて相當の手當もあり成績がよければ判任官に登用される。高女出であれば一年か二年も勤務すると判任官になつて五十圓以上給せられ、交換手の監督、養成所の教官になれる。勤務は、晝と夜とに分れ、晝勤は午前八時よ

り午後四時まで、夜勤は午後四時より翌朝八時まで、夜勤は交代で六時間の睡眠時間があり、晝勤と夜勤とは隔日交代である。なほ銀行會社商店などの私設交換臺に雇はれて行く人は、日給八十錢以上一圓五十錢位である。

乗合自動車の婦人車掌

最近乗合自動車の普及と共に、婦人の車掌が歓迎されて、先づ大抵の乗合自動車の車掌は、東京大阪は勿論地方まで女子であるといつてよい。東京市電氣局の市營自動車、東京乗合自動車株式會社の婦人車掌に就いて記せば、採用資格は小學卒業の學力があつて十七歳以上、試験には地理、歴史、國語、算術などが課せられるが第一には體格検査である。動搖のはげしい自動車に終日乗り廻はすのであるから、強健な體格でなければならぬ。採用になれば日給七十錢から八十五錢位給せられ、六日目に一日の公休日があり、それに切符の賣上歩合、哩數歩合、勤務時間歩合などがあるから一ヶ月の収入は四五十圓位になる。

これからの好職業たる美容術師

美容術、西洋結髪といふやうなことは最近急速に普及されて來たので、この方面に向ふのもよいことである。美容術師を細かに分けると、美髮師(髮結)、美顏術師、美爪術、それに美裝術即ち着物の着附、それに美容術ではないが女理髮師がある。この方面を修得するには、目下のところ養成所といふやうなものが完備してゐないから技術の優秀な信用のある美容術師の所へ弟子入りして修業する方がよい。東京で有名なのは、小口みち子(芝公園十號地)、早見君子(京橋區尾張町)、小柳浪子(麴町區丸ビル内クレオ研究所)など其他にもあるが略しておく。是等の人々の許へ弟子入りして二三年修業すれば立派な腕になる。

美容術師は、美裝も美髮も美爪も凡て兼業してゐるので、開業には種々な設備や商品化粧品などごく小額の資本をかけるとしても五六百圓はかゝる。然し一度評判をとつて流行すると、朝早くから夜晩くまで働き通しで月二三百圓の収入を得ることは容

易である。また三越美容部や其他の美容術師のところへ雇はれば月給百圓位は貰へる。

將來有望な洋服裁縫師

和服の裁縫は古來日本では女子の心得べきものとなつて居り、これを職業としても十分自活できることは周知のことであるが、最近洋装の流行と共に婦人の洋装又は子供服の裁縫師が各方面で歓迎されるやうになつた。これから益々有望な職業の一つとなるであらう。洋服の裁縫を習得するには、小學卒業の學力があれば十分に洋服裁縫の學校で半年なり一年なり裁斷、縫ひ方などを習ひ、それから熟達次第で上達する。それからは自宅で請負つて仕事をするもよし、洋服店に雇はれて行くもよし、何れにしても相等の収入がある。學校としては東京だけでもかなりあるがその二三を記して置かう。

東京女子技藝學校

東京市本郷區龍岡町三二

東京女子專修學校

同 同 東竹町三五

日本文華裁縫學院

同 神田區小川町一

文化裁縫女學校

東京府荏原郡北品川一九六

なほ洋服裁縫と共にミシンに上達しようとするには次の學校がある。

東京ミシン裁縫女學校

東京小石川區西江戸川町三四

シンガー裁縫院

同 麴町區有樂町一丁目五

餘りに知られてゐない女監取締

女監取締といふのは刑務所の女監守のことで、女の囚人を收容してゐる所謂女監の取締をするので、男子の監守と同じ職掌である。この職業に従事してゐる者は、現在ではさう多い數ではなく、全國で百二三十人で、何れも女囚を收容してゐる刑務所に勤務してゐる。この女監取締になるには、時々缺員があれば官報や新聞又は刑務所の表門に掲示して募集する。資格は高等小學卒業以上で二十一歳以上の女子、この年齢

に達してゐれば有夫の婦人でも獨身者でもよい。試験科目は法律と普通科とで、法律は刑事訴訟法、監獄法、普通科は作文、算術、讀方で程度は高等小學卒業程度である。試験に合格すれば、初給本俸三十五圓、其他に被服料舎室料十圓を給され、最高八十圓まで貰ふことができる。

技倆によつて出世の早い婦人美術家

閨秀畫家の大家は東京にも京都にも澤山をり、毎年秋の帝展に多くの年若い婦人畫家が入選して喝采を博するのは人も知る通りである。繪畫の道は全くその人の天分によることであるから、從來素質さへあれば小學卒業者でも大家の門人となつて修業して立派な女流畫家になつた人もあるが、これからはどうしても高等女學校位出てゐなければいけない。収入は、その人の技倆によることで一定してゐないが、帝展にでも入選すれば一ヶ月二百圓位の収入はあり、また個人から頼まれて彩筆を揮ふとしたら七八十圓の収入はある。次に女子の小學校卒業者でも入れる美術學校を記して置かう。

女子美術學校

東京市本郷區菊坂町

川端畫學校

同 小石川區下富坂町

日本美術學校

東京府戸塚町荒井山

趣味に生きる婦人音樂家

音樂は美術を同じく、その人の趣味によるので、若しこの趣味を持つてゐる者が音樂家として世に立つことが出来れば、全く自己の趣味を生活の中に生かして行けるといふものであらう。音樂といつても琴曲師匠、ピアノ、聲樂など區別があるが、ピアノや聲樂は官立の東京音樂學校に入つて修業するのが順路である。この學校の本科は高女卒業を入學資格としてゐるが、乙種師範科は高等小學卒業で入學できる。なほ私立の音樂學校卒業でも差支へない所が多い。さて世間に出てピアニスト又は聲樂家として立てば、どれ程の収入があるかといふに個人教授をしても一ヶ月百五十圓はとれ

る。また演奏會などの公開の席に出れば一曲百圓位は普通で、一流の大家になれば三百圓にも五百圓にもなるがこゝまで行くには容易でない。

琴とか長唄とかの和樂は、各流の家元の指南所があるから、そこに行つて四年なり五年なり修業すれば師匠になれるので、月謝は三圓から五圓位。師匠になれば一ヶ月五六十圓以上で、良家の令嬢を多く門人として自宅教授の外に出張教授をすれば、一ヶ月二百圓以上の収入がある。

東京音樂學校

東京市下谷區上野公園

東洋音樂學校

東京市外高田町雜司ヶ谷六〇〇

女子音樂學校

東京府中野町字打越二〇二一

清らかな生活の幼稚園保姆

純真無垢な幼兒を相手にしてその日を暮す清らかな生活に幼稚園の保姆がある。これになるには小學教員の免許状を持つてゐる者か、女學校を出て一年以上幼稚園にゐ

た者かは無試験でなれるが、それでない者は文部省の檢定試験を受ければよい。小學卒業者でも保姆養成所へ一ケ年も通學すれば容易に合格することが出来る。保姆の最初の給料は三十圓から四十圓位である。

試験檢定の受験資格には制限はないから誰でも受けられるが、試験程度は尋常小學校本科正教員檢定試験程度であつて、科目は左の通りである。

修身(道德の要旨)教育(教育、兒童心理、教授法及管理法の大要)保育(育兒法、保育法、保育項目に關する事項の實際)國語(普通文及小學校教科用讀本の講讀、作文、習字)算術(整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例)歴史、地理、理科、手工、音樂、體操、裁縫、圖畫(自在畫)

なほ東京に於ける保姆の養成所は次の通りで、修業年限は一ケ年位である。

帝都教育會附屬教員保姆傳習所 東京市小石川區竹早町八

東京保姆傳習所 同 小石川區原町一〇一

玉成保姆養成所 同 小石川區原町一〇一

東洋英和女學校幼稚園師範科 同 麻布區東鳥居坂町八
 福音教會保姆養成所 同 小石川區指ヶ町八四

小學卒業で女教員となる道

小學校の教員になるには高等小學を卒業して女子師範に入るか又は高等女學校を出て女子師範二部に入ればよいのであるが、さういふ正式の教育を受けないで教員の資格をとるには「小學校教員檢定試験」を受けて合格すればよい。この試験には學歷や年齢に制限がないから小學卒業者でも少し勉強すれば大丈夫である。この試験に就いては本書男子の部の小學教員の章に詳しく記しててあるからその所を見られたい。男子も女子も試験は同じである。

現代就職編 (終)

座談及社交編

▲座談術

座談の上手な人は何人にも好かれるから目上の人から引立を受け意外に成功なし幸福に世を送るが、之が下手な人は自分の思ふ事も録々よく相手に話をせず相手に悪感を興へるから。

社交にいつも失敗を重ねなければならぬ實に座談上手は交際と立身成功の武器である座談の上手は多くを語らずして相手を成程と思はず下手な人はベラ／＼と無駄口ばかり喋り相手に何の感動も印象も興へぬ昔からよく云ふ下手の長談義では何の効もない。

▲座談の心得

座談の上手と下手は人一代の内に大なる損徳がある丸い玉子も切様で四角話も言ひや

で角が立ちますから注意せねばなりません親子夫婦の中でさへ只の一言の行違ひから公論をせねばならぬ事がありますまして他人と社交に交際に談判交渉等にはせひ座談術を心得て置かねばならぬ人を訪問する時又はせられたる時は相當の禮儀を以つて挨拶をせなければならぬ初對面の時はたがい人物を知り合ふ爲であるから特に注意せねばならぬ。禮儀法は別に本書に書いてありますから一讀を願います應對法には三種あります。一、は目上に對する時、二、は同輩に對する時、三、は目下に對する時です目上の時は最も禮儀たゞしくせねばならぬ同輩の時は一寸頭を下て用談の外は理屈を一切ぬいて肩のこらぬ世間話でもして共に快活に話し合ふ方がよい目下の時は雇人でも現代は一般に民本主義の世の中だから親切に心安く話をなし決して命令的に言ふのはよろしくない。

▲人心看破の心得

人を一寸見て其の人の人相や顔面の表情によつてすぐ對手の心を判斷なし此人は現在何を考へてゐるか何んな用談ありて自分の所へ來たか良い人か悪い人かを初對面により看破する人がありますこれが人心看破であります。人間は千人集つても眼や鼻は全部揃つてゐるが一人として同じ顔はない心も同一でない人の人相は其人の境遇と精神により變化する事は争はれぬ事實であります。悪人は面談しても何となく險惡の所が顔面に現れてゐる善人は何となく顔に善人面を現してゐる顔面は心の影を映する反射鏡でゐると某人は云つてゐる。

▲用談は成可簡明にせよ

人を訪問の時は第一用件を方づける様にせねばならぬ用談は相手に敬意を失はぬ表情で秩序正しく結論に話を進めて行やうにせねばなりません先方に自分の意志を通じたなれば話は速に解決するものである。

▲服装は人格上必要

人と應對する時服装も必要である初對面の時は服装により人格を見るから注意せねばならぬしかし華美を飾る必要はない着物は質素でも清潔なるものがよいのである自分の現在の身分に相應する服装であればそれでよい。

▲場合によりは是非禮服

しかし婚禮貴人に對する時又は葬式などの時は是非共禮服を着なければいかぬ、和服なれば紋附と羽織と袴を附ける必要があります、洋服なればフロックコート又はエンビ服又はモーニングである右必ず心得て置く必要あり。

▲對話する時音聲の心得

人と對話する時は好い聲で最も穩やかに話をせねばならぬ好い聲は人に快感をあたえます、座談が上手でもあまり大聲の人や聲の悪い人は對手に好かれぬ常にキレイな言葉を使つてゐれば座談の時も必ずよい言葉で話が出来ますから平生から注意して練習して置けばよろしい。

▲談判の秘訣

談判をするには互に誠心誠意を以て談判せねばならぬ對手の人が正義なるに策略としては自分の失敗となる外交談判に色々なる懸引をして解決するのは最善の解決法ではないしかし對手の人物によつては注意せねば對手が策略を使ふ時がある。

▲相手により談判に懸引必要

各種の談判は誠意の交換でなければならぬが對手人物によりては大いに策略を使はねば勝てぬ時がありますから懸引も對手により必要である。

▲外交員の秘訣

外交員と云つても色々あるが其内六ヶ敷のは各種新聞や雑誌の廣告取次や生命保險の外交員や物品の販賣員などは最も苦心せねばならぬ相手の内へ五回や十回云つて中止する様では成功せぬお百度ふんでも勸めて必ず成功すると云ふ位の決心を持たねば不成功ばかりいつもつゞく外交員の骨折りは一通りや二通りの苦心をする決心で始めから勧誘にかゝらぬと成功するものでない。

▲人を説き落す法

人を説くと云ふ事はナカ／＼六ヶ敷い事であるがこれが外交の人には是非共必要であるこれが出来ないと成功が不可能であるこの秘訣は相手の人格及氣質を知る必要があるそれから話を始める事が肝要である應接室をよく見れば主人の道樂及氣質を一寸察

しる事が出来るものであるとして話題を出さねばならぬ。

▲圓滿解決秘訣

先方の充分意見を聞いた上冷静にこれを考へた上自分の意見を簡明に述べ對手が得心する様話を進めれば大抵の人間なれば圓滿解決すであらうと思ふ。

▲借金の断りは正直に

借金の断りは最も誠意を以て話をせねばならぬ先方へウソを云つて何回も遠い所から無駄足をふまさぬようにせねばならぬ先方に自分の誠意を認めてもらう事必要なりさすれば先方も信じ圓滿に解決方法が出来ると思ふ。

▲料理や其他で遊ぶの心得

遊びの上手の人は金を生かして費ふが下手の人は死金を費ふから金を多く使つても面白く遊ぶ事が出来ぬいくら金を出して遊ぶのにしてもあまり威張つたり我儘を云つたりすると藝妓や女中に笑はれたりするから注意せねば金を使つて馬鹿にされたり笑はれたりする。

▲遊びのコツ

遊び上手の人は僅か三圓か五圓の金でも上手に使ふから相手から好かれるが下手な人は多くの金を使いながら蔭で笑はれ相手にはきらわれる遊ぶ時は自分から馬鹿になつた氣持で又ならぬ様な風で愉快に遊び、後アツサリと歸る方がよい女に祝儀をやる時は威張た態度など取らずにこれ少して失禮ですが取つて置いて呉れと云へば相手は僅かの金でも心よく思ふ。

▲社交の秘訣

人と交際するにはせひ約束を守らぬと信用がなくなる注意せねばならぬ人によりては相手の甘心を得るため何日は何所へ行きませうとか云つて其場きりのお世辭を流して了ふ人があるがこれは決して人に好かれる道でなく反對に相手から頼りない人と不信用を得る事になる約束をした時は必ず實行せねばならぬ若し實行不可能の時は始めから断るか約束の前日迄に事情を話し断りせねばならぬ。

▲話し上手

社交に話の上手下手は一生に大なる損徳がある昔から口数の多い人は人より好かれな
い多言の人には慨してウソつきが多いそのため昔の武士は多く語らない必要に應じて
その事の根本を話すしかし現代は相當の能辯でなければ社會へ立つにも困る社交場裡
では猶ほ一層能辯の必要が有る話上手の人は其人が同座せないと淋しい感じを抱かせ
る人がある。

▲話し下手

俗に口下手といふ人がある同じ挨拶をしても其人の挨拶は何んとなく厭味に聞こえた
り他人が好感をもたなかつたりする本人は心では然うではないのだが心にもない事を
言つて了ふ時がある全く口下手の結果であるのだ口下手から他人に悪感を抱かせると
相手の人もいい氣はしないから益々厭やな思ひをして取り返しつかない事になる商
賣人などで口の下手な人は成功出来ぬさうです。

▲お世辭のよしあし

人には可なりお世辭の必要はあるがお世辭でも過ぎたるは及ばずで餘りすぎるとお世
辭にならず相手を迷惑がらす事になる眞實の事を眞實にいふのが人間として必要であ
るお世辭も程度を越すと失敗するお世辭やお愛相は必要とするも見え透いたお世辭は
相手からの反感を招く時がある。

▲貸金の取立法

貸した金を取るには注意せねばならぬ貸した金でもあまり下手な請求をすると相手の
反感を招いで失敗する事があるから餘程心得て置かねばならぬ大きな聲で理屈を並べ
請求せずとごこ迄も穏やかに話をなし情に訴へる様にした方が有効であります借りた
金を拂はぬと云ふのは多くは金が無いからであるから如何に強硬な談判をしてもだめ
である。

座談及社交編 (終)

習字及書筒編 目次

◆	ペン持ち方と文字書き方	一
◆	ペン先の運び方	二
◆	片假名	三
◆	羅馬字「アルハベット」	五
◆	數字	六
◆	平假名	七
◆	變體假名	九
◆	連接平假名	一
◆	連接變體假名	二
◆	變體くづし方	三

目

一

宛名書方	三五
発信、冒頭、返信	三七
結尾、脇付	三八
月名	三〇
平假名君が代	三三
變體君が代	三四
商業用語	三五
楷行草	四四
封筒の書方	四九
ハガキの書方	五〇
請求書作り方	五一
委任状の作り方	五二

領收證作り方	五三
新年宴會に招く文	五四
恭賀新禧	五五
註文品到着通知	五七
爲替不着に付照會	五八
發送品着否の照會	五九
委託販賣を申込む	六〇
代金を催促する文	六一
註文品の積出を報する文	六二
支店の開設を報する文	六三
新築落成を祝する文	六四
積出品の相違を報する文	六五

- ◆ 支拂の猶豫を依頼する文…………… 六六
- ◆ 店員獨立開業通知…………… 六七
- ◆ 新築移轉披露…………… 六八
- ◆ 梅花を贈る文…………… 六九
- ◆ 鹽原行に誘ふ文…………… 七〇
- ◆ 暑中見舞の文…………… 七一
- ◆ 運動會見物に誘ふ文…………… 七二
- ◆ 襲名の披露…………… 七三
- ◆ 寒中見舞の文…………… 七四
- ◆ 來診を乞ふ文…………… 七五
- ◆ 他人の住所を問合す文…………… 七六

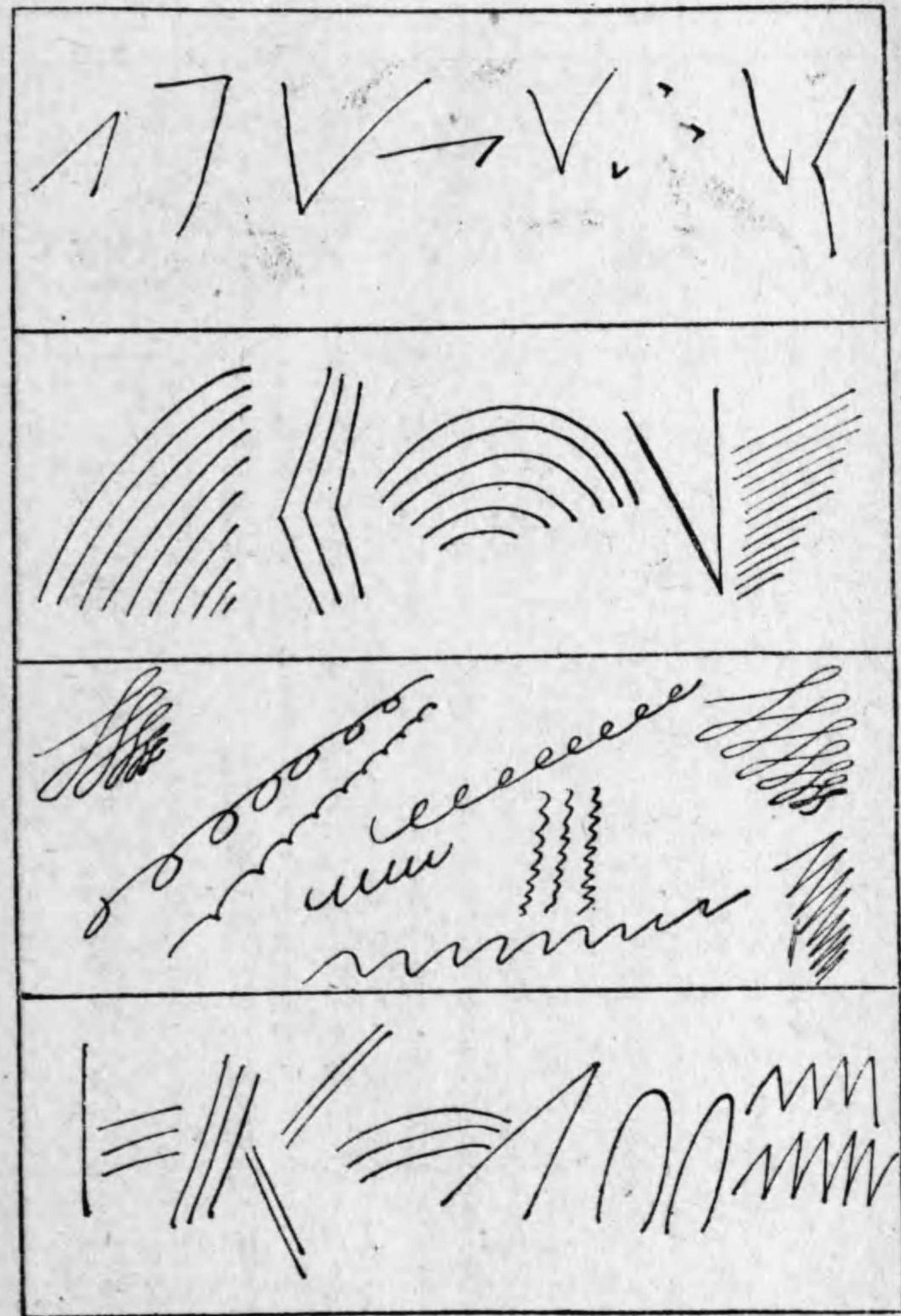
(をばり)



ペン持ち方と文字書き方

圖に示す如くペン軸は第一指と第二指と拇指を僅かに
 曲げて指節の邊で持つことである。
 ペン文字を上手に書くには、すつて毛筆の様にかき、
 入れぬことせず、從つて角が跳ねる勢が、おぼろげ
 軽く力を抜き加減にするのである。元來ペン文字の
 持ち長は早く綺麗な書くこと、ゆゑからペンを出來得る
 限り無理せず自然の儘、なるべく運筆事を練習する事、す
 掌は恰も小さい鶏卵一個か、はいる位に廣くあげ、その
 爪先が軽く紙面にふれる様にするのである。又手頸は
 堅くしない、自由な手の運動が出來る様にして置かざら
 り、ペン先の標が方、ペン先はGペンが一番よろしい、殊に又
 舶來のヒニクス製のもの、和製と同値であつて、品は好い
 Gペン、下馴れは他のペンは何れも使へる、軟弱な
 紙はなるべく西洋紙が書心、古かともしい、前記はペン
 練習者には必要なる事項であるから、學習者はこれをよく
 守り研究せられ、より進歩を希望する。

ツ	ワ	ト	イ
ネ	カ	チ	口
ナ	ヨ	リ	ハ
ラ	タ	ヌ	ニ
ム	レ	ル	ホ
ウ	ヅ	ヲ	ヘ



音十五トッバハルア字馬羅

A	ア	I	イ	U	ウ	E	エ	O	オ
<i>a</i>	<i>i</i>	<i>u</i>	<i>e</i>	<i>o</i>					
KA	カ	KI	キ	KU	ク	KE	ケ	KO	コ
<i>ka</i>	<i>ki</i>	<i>ku</i>	<i>ke</i>	<i>ko</i>					
SA	サ	SI	シ	SU	ス	SE	セ	SO	ソ
<i>sa</i>	<i>si</i>	<i>su</i>	<i>se</i>	<i>so</i>					
TA	タ	TI	チ	TSU	ツ	TE	テ	TO	ト
<i>ta</i>	<i>ti</i>	<i>tsu</i>	<i>te</i>	<i>to</i>					
NA	ナ	NI	ニ	NU	ヌ	NE	ネ	NO	ノ
<i>na</i>	<i>ni</i>	<i>nu</i>	<i>ne</i>	<i>no</i>					
HA	ハ	HI	ヒ	FU	フ	HE	ヘ	HO	ホ
<i>ha</i>	<i>hi</i>	<i>fu</i>	<i>he</i>	<i>ho</i>					
MA	マ	MI	ミ	MU	ム	ME	メ	MO	モ
<i>ma</i>	<i>mi</i>	<i>mu</i>	<i>me</i>	<i>mo</i>					
YA	ヤ	YI	イ	YU	ユ	YE	エ	YO	ヨ
<i>ya</i>	<i>yi</i>	<i>yu</i>	<i>ye</i>	<i>yo</i>					
RA	ラ	RI	リ	RU	ル	RE	レ	RO	ロ
<i>ra</i>	<i>ri</i>	<i>ru</i>	<i>re</i>	<i>ro</i>					
WA	ワ	WI	イ	WU	ウ	WE	エ	WO	オ
<i>wa</i>	<i>wi</i>	<i>wu</i>	<i>we</i>	<i>wo</i>					

工	サ	ケ	斗
ヒ	キ	フ	ノ
モ	ユ	コ	オ
セ	メ	エ	ク
ス	ミ	テ	ヤ
シ	シ	ア	マ

つ	わ	と	い
ね	か	ち	ろ
な	よ	り	は
ら	た	ぬ	に
む	れ	る	ほ
う	ろ	を	へ

GA	ガ	GI	ギ	GU	グ	GE	ゲ	GO	ゴ
<i>ga</i>		<i>gi</i>		<i>gu</i>		<i>ge</i>		<i>go</i>	
ZA	ザ	ZI	ジ	ZU	ズ	ZE	ゼ	ZO	ゾ
<i>za</i>		<i>zi</i>		<i>zu</i>		<i>ze</i>		<i>zo</i>	
DA	ダ	DI	ヂ	DU	ヅ	DE	デ	DO	ド
<i>da</i>		<i>di</i>		<i>du</i>		<i>de</i>		<i>do</i>	
BA	バ	BI	ビ	BU	ブ	BE	ベ	BO	ボ
<i>ba</i>		<i>bi</i>		<i>bu</i>		<i>be</i>		<i>bo</i>	
PA	パ	PI	ピ	PU	プ	PE	ペ	PO	ポ
<i>pa</i>		<i>pi</i>		<i>pu</i>		<i>pe</i>		<i>po</i>	
一	二	三	四	五					
1	2	3	4	5					
六	七	八	九	十					
6	7	8	9	10					

名傾體變

法	和	心	心
味	の	去	海
奈	と	里	左
羅	又	如	子
世	斗	留	河
亨	持	越	角

急	さ	け	あ
ひ	き	ふ	の
も	ゆ	こ	に
せ	め	は	く
す	み	て	や
ん	し	あ	ま

名假體變

直	河	帝	為
心	老	奴	純
老	智	十	於
勢	由	江	皇
寺	幼	亨	極
運	志	美	波

名假平接連

あ	う	あ	い
あ	あ	あ	い
あ	あ	あ	い
あ	あ	あ	い
あ	あ	あ	い
あ	あ	あ	い

わわにんじし和和和和

わわにんじし和和和和

とよと世代年餘年餘年

たた多たた多たた多た

れれ社社斗一連社社

そそろ和和和和

いいに都都都都

ねねねね福福福福

たのふ^ナたふ^ナたふ^ナたふ^ナたふ^ナ

らら^良らら^良らら^良らら^良らら^良

むむ^武むむ^武むむ^武むむ^武むむ^武

ふふ^宇ふふ^宇ふふ^宇ふふ^宇ふふ^宇

おお^烏おお^烏おお^烏おお^烏おお^烏

のの^能のの^能のの^能のの^能のの^能

おお^於おお^於おお^於おお^於おお^於

ふふ^久ふふ^久ふふ^久ふふ^久ふふ^久

頭	冒	信	返	頭	冒	信	發
披	芳	相	拜	捧	寸	謹	拜
兒	黑	以	復	兒	楮	成	啓
拜	御	拜	拜	一	寸	謹	拜
兒	書	誦	讀	筆	翰	呈	呈
拜	御	敬	復	兒	呈	前	肅
誦	清	復	啓	二	二	略	略
御	來	謹	肅	一	筆	奉	恭
章	示	誦	答	二	二	啓	啓
抄	系						

名 宛							
貴	貴	貴	賢	令	令	令	令
嚴	君	嫌	息	室	室	室	室
脈	舍	愚	尊	學	先	君	樣
兒	弟	兄	臺	兄	生	君	樣
悴	家	弟	大	雅	詞	閣	樣
娘	內	妹	人	兄	兄	下	樣
野	迂	尊	愛	愚	足	不	小
生	生	君	女	子	下	肖	生
相	可	被	申	小	與	私	拙
之	致	下	入	子	樣	共	者
							新
							愚
							妻

付		脇		尾		結	
平	親	玉	侍	敬	不	草	以
信	展	案	史	具	宜	上	上
至	直	座	机	敬	不	頓	匆
急	披	右	下	亦	備	首	夕
貴	託	硯	函	再	謹	九	牝
酬	幸	北	丈	擇	白	拜	石
某	託	御	梧	謹	恐	擇	不
氏	何	許	下	字	懼	具	一

月	一	賀	煩	夕	迨	副
歲	睦	正	貴	封	啓	啓
寒	月	新	答	緘	迨	副
之	端	春	各	糊	陳	伸
候	月	年	拜	蕾	迨	再
大	寧	加	酬	壽	而	申
寒	氣	齡	尚	固	一	再
之	酷	越	志	綴	言	白
候	烈	年	乎		申	之
	之				添	伸
	候				候	

月二	如月。今月。晚冬。輕寒。其寒之候。
月三	餘寒去。難之。殘寒甚。一之。
月四	彌生。春月。早春。春暄。
月五	春暖相催。候。寒暖不順之候。
月六	卯月。清和。暖。和之候。
月七	梅花之候。春風駘蕩之候。
月八	翠月。梅天。三春行樂之始。
月九	新綠之候。晚春之候。

月二	水芒月。麦秀之候。初夏之候。
月三	林鐘。梅雨。鬱陶。炎暑之候。
月四	文月。系月。大暑之候。
月五	三伏。炎暑酷。酷暑之候。
月六	葉月。桂月。殘暑之候。
月七	秋暑。凌。穰。殘暑料峭。
月八	長月。菊月。黃月之候。
月九	菊。秋之節。新秋之候。

	月二十	月一十	月十
君か袖にふれまうとまらしも縁をえん <small>阿ふもらまらに嘆き如かゆら舞 落合古交</small>	師走。暁月。寒。冷。之。候。 宵。兼。お。催。し。と。交。兼。未。追。忙。	霜月。暢月。小春。之。節。 暮。秋。之。候。逐。日。向。寒。	神无月。小春。秋。晴。快。通。 秋。も。半。に。お。城。り。秋。冷。相。催。し

才ふみかのは
 ちよらにやちよらに
 さこれいの
 いはほらなりて
 こけのむすまへ

商 業 用 語

區 域	強 強	競 爭	委 女 細	遺 憾	意 外
喰 違	協 議	緊 要	異 變	違 算	印 鑑
苦 情	氣 迷	金 策	言 觸	維 持	異 議
屈 曲	銀 行	拒 絶	違 約	意 匠	委 任
倉 敷	巨 萬	金 額	依 賴	依 然	意 見

奇 術 加 代 水
 ありあけや
 精 心 志 願
 以 心 志 願
 六 計 心 志 願

商 業 用 語

相濟	安堵	愛嬌	永久	内渡	請取
昂騰	相對	愛顧	影響	裏書	受授
相互	詭向	挨拶	營業	賣込	埋合
頭割	間柄	合印	英斷	賣放	運送
相手	當前	愛想	延期	賣惜	有無

商 業 用 語

啾大驚	寄港	記憶	呆然	幹旋	生憎
偽造	起算	機會	惡評	合判	極方
奇技	機敏	氣構	惡意	曖昧	預入
希望	氣配	危急	齷齪	壓制	待遇
規約	犠牲	期限	飽迄	相變	預證

高業用語

責 <small>せま</small> 任 <small>りん</small>	成 <small>せい</small> 算 <small>さん</small>	誠 <small>せい</small> 意 <small>い</small>	代 <small>だい</small> 價 <small>か</small>	搜 <small>そう</small> 索 <small>さく</small>	相 <small>さう</small> 違 <small>い</small>
前 <small>ぜん</small> 途 <small>と</small>	正 <small>せい</small> 當 <small>とう</small>	聲 <small>せい</small> 價 <small>か</small>	大 <small>たい</small> 概 <small>がい</small>	粗 <small>そ</small> 忽 <small>とつ</small>	增 <small>ぞう</small> 加 <small>か</small>
設 <small>せ</small> 置 <small>ち</small>	整 <small>せい</small> 理 <small>り</small>	成 <small>せい</small> 功 <small>こう</small>	待 <small>たい</small> 遇 <small>ぐ</small>	存 <small>ぞん</small> 外 <small>がい</small>	總 <small>そう</small> 計 <small>けい</small>
遷 <small>せん</small> 延 <small>えん</small>	成 <small>せい</small> 立 <small>り</small>	精 <small>せい</small> 々 <small>々</small>	對 <small>たい</small> 照 <small>しょう</small>	算 <small>さん</small> 盤 <small>ばん</small>	踈 <small>そ</small> 漏 <small>ろう</small>
專 <small>せん</small> 有 <small>ゆう</small>	稅 <small>ぜい</small> 率 <small>りつ</small>	盛 <small>せい</small> 會 <small>かい</small>	臺 <small>たい</small> 帳 <small>ちやう</small>	損 <small>そん</small> 料 <small>りやう</small>	即 <small>そつ</small> 刻 <small>こく</small>

高業用語

數 <small>すう</small> 量 <small>りやう</small>	集 <small>しゅう</small> 金 <small>きん</small>	失 <small>しつ</small> 敗 <small>ぱい</small>	支 <small>し</small> 給 <small>きゅう</small>	敷 <small>しき</small> 金 <small>きん</small>	仕 <small>し</small> 上 <small>あげ</small>
隨 <small>ずい</small> 意 <small>い</small>	周 <small>しゅう</small> 旋 <small>せん</small>	實 <small>じつ</small> 行 <small>こう</small>	刺 <small>し</small> 戟 <small>げき</small>	事 <small>じ</small> 業 <small>ぎやう</small>	市 <small>し</small> 價 <small>げ</small>
衰 <small>すい</small> 運 <small>うん</small>	手 <small>て</small> 段 <small>だん</small>	失 <small>しつ</small> 念 <small>ねん</small>	事 <small>じ</small> 態 <small>たい</small>	視 <small>し</small> 察 <small>さつ</small>	市 <small>し</small> 街 <small>がい</small>
出 <small>しゅつ</small> 納 <small>なつ</small>	準 <small>じゆん</small> 備 <small>び</small>	借 <small>しゃく</small> 賤 <small>せん</small>	質 <small>しつ</small> 素 <small>そ</small>	至 <small>し</small> 極 <small>ごく</small>	資 <small>し</small> 格 <small>かく</small>
據 <small>すま</small> 置 <small>おき</small>	情 <small>じやう</small> 誼 <small>ぎ</small>	收 <small>しゆ</small> 入 <small>にゅう</small>	支 <small>し</small> 辨 <small>べん</small>	識 <small>しき</small> 別 <small>べつ</small>	志 <small>し</small> 願 <small>げん</small>

商 業 用 語

押印	年俸	贖物	内濟	徒弟	特色
褒賞	望手	荷荷	成程	督促	突然
方針	平均	柔和	何故	得策	取返
老練	騙取	認可	難問	努力	得意
兩得	便利	投賣	荷揚	特權	特約

商 業 用 語

抵當	手當	通運	着手	歎願	態度
轉居	遞送	通常	抽籤	團結	代表
顛倒	體裁	鈞錢	注意	擔當	代理
店鋪	鄭重	強氣	中止	建直	妥協
添書	低落	通例	帳尻	知己	絶間

商 業 用 語

我意 回航 覺悟 延着 應援 推量

開業 外交 確實 圓滿 應接 使命

外勤 皆濟 飾附 撰技 仰付 折返

會計 概算 過失 營利 應諾 押賣

解決 解傭 掛合 益金 御蔭 往復

商 業 用 語

形勢 輕減 計畫 價值 通帳 勘定

經營 景況 携帶 合併 加盤 隔意

結局 下落 缺點 貨物 為替 格外

減額 原價 結果 株券 看客 擴張

景氣 景品 元氣 關係 渴望 嗜好

水	心	心	忠	忠	五	五
產	志	志	勇	勇	穀	穀
豐	堅	堅	義	義	成	成
富	固	固	烈	烈	熟	熟

弱	公	公	業	業	老	老
者	益	益	務	務	幼	幼
援	尊	尊	勵	勵	扶	扶
護	重	重	精	精	養	養

私	規	規	病	病	災	災
利	約	約	貧	貧	害	害
排	信	信	慰	慰	救	救
斥	用	用	撫	撫	濟	濟

牧	街	街	雞	雞	暮	暮
童	燈	燈	鳴	鳴	雲	雲
歸	消	消	早	早	晚	晚
還	滅	滅	起	起	鐘	鐘

沿	雷	雷	道	道	軌	軌
線	雨	雨	路	路	條	條
回	激	激	崩	崩	整	整
形	甚	甚	壞	壞	理	理

田	租	租	河	河	汽	汽
畑	稅	稅	溝	溝	電	電
耕	納	納	橫	橫	不	不
種	入	入	溢	溢	通	通

世界無極	東洋隅角	日本嚴存	日本嚴存
皇統連綿	一天萬乘	國土平穩	國土平穩
四海君臨	獨立自治	文武兼修	文武兼修
民人親睦	民人親睦	民人親睦	民人親睦

百花美麗	綠陰繁茂	盛夏涼風	冬夏涼風
漁舟浮游	秋高馬肥	三冬枯林	三冬枯林
片月明暗	且霧濃密	郊外漫步	郊外漫步
霜葉飛散	霜葉飛散	霜葉飛散	霜葉飛散

きがは便郵

北海道土川郡士別町大通

平賀清助様

東京市日本橋区大傳馬町

切手

武内銀月

先以報告迄の手

昨如

取座

扱下

成

遊

敬

印紙

請求書

金貳千參百五拾圓也

内譯金八百七拾五圓也

金壹千零七拾五圓也

右之通り請求候也

成昭堂様

三弘社

人生哲學

八百七拾五圓

吾輩は猫也

坂東

印紙

委任状

拙者部理代人として左之權件事項を東京市日本橋區通事目住友信託株式會社へ代理被致候事委任状如件

金壹萬五千八百圓也

自 年 月 日 至 年 月 日

東京市神田區佐久間町廿七番地

武林唯七 印

奈良石春藏 啟

年 月 日

印紙

領收證

金貳仟五百圓也

明細請求書通り

右之通り正領收候也

年 月 日

飯田吳服店 印

何銀行 御中

新年宴會に招く父

持白明何日は例年之通り新年の
酒宴相催候間午後五時半頃御
尊来被下度候定まりの組重の
みにて然したる食饌も無之候共
海外漫遊歸リ某氏も来會に付多々
珍話あらしんと存候也御案内迄貴臨
奉待候不宣

恭賀新禧

併而平素の御躰音を謝し

貴家倍舊の御繁榮を祈る

一月一日

新年の清吉慶萬里回風芽出度申
納め候先以貴店滞同様法揃ひ念々
御清遊超歳被遊矣段大慶の至りに奉存候

扱了舊年中は格別を以て一方おとす御引立を以り
 御座るといふ弊店の業務日増に隆盛に趣ま候
 段これ偏に平素御愛顧によるものと存じ不
 萬忝く御石守禮申上候 弊店儀も本年は
 一層の努力を以て業務に従事致すべし決心に
 御座り候 相変らず御眷顧を引立の程
 偏に奉願上候 猶ほ此際御同業者各位
 へも宜敷い吹聴被下度添へ願上候 先を年
 頭御祝詞を申述度如斯く候 敬具

註文品到着通知

拜啓毎々御手数掛奉謝候者本月之
 日を以て御註文申上候書籍類飯島
 會社出島地支店の手を以てに到着早
 解荷取調候處仕切面の通更に相違を
 之正入入手仕候間御安心被下度不取
 敢御通知申上候 草々

為督不着に付照會

謹啓 由是向より此の契法に宛て為さるる
 振出の由に於て是れ如く今以て到着するは其の
 分中途中より延滞を生ずるは致さるべし其れは
 幸甚地扱法等々一應の取調に付成後氏は
 御照會の上は 當り白にては契法に
 着乃上取去り 電報より 以て通知するに
 右要件の事 不果

發送品着否の照會

拜啓 毎日の引立に預り厚に御禮申上候陳者
 先月某日以御送文被下矣洋及物は同五日全部
 取揃へ當他丸太運送法扱鐵道便より御送荷
 申上既に二週間経過せし故に御入荷済の事には
 確信罷在矣と申上貴社より御通報無之き着
 否如何と存じ御照會申上矣間御敏系忙中御
 敷事と御一報相煩し度願上候

敬白

經文不の積出を報告す

お願毎の厚情を御り難く此乳
中が就には各九の付の経文は各人出折
學并に其業は猶も別紙仕切書通り
秋系運込迄お返し下さり上は通知
既月書傍物引換仕切書各一通同書
致旨の欲収書及此先合の報告す
其の

支店の開設を報告す

謹啓不店儀今般業務擴張の爲
大政申道新橋市式橋業詰南に支店
開設す江系中心地を本店長と
支店一切の業務を支配及せしめ付
本店同様の取扱を以て之の程報告
先合の報告す其の

新築落成を祝す文

縁下以行重平の報應通り新築の落成
成り就て今回益々以開店賑々しく
市賣出多有り一喜一憂を以て下多年の
所望の如きを遂げやせしれ誠々固貫乃
場所極々之後以貴族の程々想像
せし水下一入りの新築中一市平一近中
二所同少改平一積り下す取敢て平
以祝詞を中一上平一

続忠平の五通を報告す

七月廿五日付の続忠平様
寄物五通奉到美に在りましたるに
古下信印帳に照して取調へましたるに
中括五通の以調子結城油子一及不足と
云り奉り前送り多ありは左の如く
奉り以忘れぬ事なれども
急調書の上返り在り奉り